

学園だより

第87号

令和2年3月発行
都城工業高等専門学校
広報委員会



Contents

●巻頭挨拶	1	●特集Ⅲ 拝啓後輩殿(OB・OG通信)	26
●学内動向	2	卒業生から後輩へのメッセージ	
●ようこそ学生相談支援室へ	3	●特集Ⅳ こちら後援会	28
●着任挨拶	4	鹿児島東支部、曾於支部からの声	
●退任挨拶	6	●新旧学生会長挨拶	30
●卒業記念・修了記念	9	●学内トピックス	31
●特集Ⅰ 文化祭	21	●学生表彰	33
実行委員長挨拶・4年生研究発表		●高千穂寮トピックス	35
●特集Ⅱ こちら在校生	24	●国際交流トピックス	36
3年生のクラスの現況・雰囲気を紹介		●主な就職・進学内定先一覧	38

平成31年そして令和元年度を 振り返って



校長 岩佐 健司



2019年は5月1日に新元号「令和」が制定されました。新しい時代の到来を予感させます。他方、東日本で台風大雨被害が相次いだことはお見舞いを申し上げるとともに、このことは地球温暖化の影響であるとの指摘もあり環境問題は今後深刻化すると思われます。産業分野で明るい話題としては、リチウムイオン電池開発で旭化成の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞されました。リチウムイオン電池はパソコンやスマートフォンに広く普及しています。そして、リチウム電池は大容量蓄電用電池として地球温暖化への環境問題解決に繋がる期待があります。ところで、吉野彰氏が科学に興味を持つ原点となったのが『ロウソクの科学』という本であったと述べられています。多くの先人が将来を導く出会いが本であることはよく伝えられており、そして、本を読む習慣は体系的な知識蓄積と創造力発想力の醸成に役立つことはよく知られています。

さて、本校学生が表現する各種イベントのパフォーマンスはエネルギーで、クラスマッチ、体育競技会の応援合戦、文化祭の学科紹介等々は若者らしいバイタリティと創造力に良き伝統の継承をしています。また授業参観、学科紹介への多くの保護者のご参加、おもしろ科学フェスティバル、合同企業説明会などのイベントへの地元企業の展示ブース出展、そして多くのイベントに小中学生を含む市民の皆様の参加は、本校にとって大きな励みとなっています。

学生の課外活動では、体育・文化活動等多分野のイベントで数々の活躍がありました。その一端をご紹介しますと、令和元年度都城市スポーツ賞では団体の部で女子剣道部が、また、個人の部で4名の選手がそれぞれ優秀賞を受賞しました。ロボットコンテストの競技テーマは、本物のTシャツ・バスタオル・シーツを、フィールドに設置された3本の物干しざおにロボットが干していく課題でした。本校チーム「ハットトリック！ポッポちゃん！」は、萩生田文部科学大臣から、独創的なアイデアを実現させたチームに与えられるアイデア賞を、株式会社安川電機から特別賞をそれぞれ受賞しました。

今年度、本校が担当・実施した特徴的な2つのイベントを紹介いたします。まず、国公私立高専がプログラミング技量と創造性を発揮する全国高等専門学校第30回プログラミングコンテストが10月17、18日に都城市総合文化ホールにて開催され、1500人を超える来場者がありました。

本校卒業生である株式会社コロプラ馬場功淳社長、株式会社アラタナ浜渦伸次社長との対談会もあり、大いに盛り上がりました。本校チームも企業賞を受賞いたしました。

つぎに、新産業を牽引する人材育成を目的とし、小中学校と都城高専の架け橋となる「少年少女科学アカデミー」が始まりました。これは、小中学生への早期技術者教育およびグローバル人材育成を目的としており、本校教員・技術職員さらに学生が講師となって小中学生に最新の技術指導を行っています。受講者からは興味深いイベントとの評価をいただいています。

今年度の進路状況につきましては、例年どおり多くの求人を戴いております。高専卒業後に大学の3年生に編入する「大学進学」と本校専攻科に進学する学生も例年同様の実績となりました。産業界を中心に、高専卒業生への期待は引き続き大きいと実感いたします。

ところで、社会全般を俯瞰すると少子高齢化による生産者人口の減少が経済全般におよぼす停滞が懸念されています。その解決への期待としてAIなど高度情報技術の広範囲な活用があります。そして、高度情報技術を知能ロボットや自動運転車等のリアルな機械やシステムへうまく移植できる工学技術者はさらに必要であり、工学技術をバックボーンとして持つ高専生が活躍できる分野は多岐にわたります。

今年度の終わりに際し、学生諸君には学生生活を振り返り、新たな年度を迎える準備をしてほしいと思います。また、この春本校を卒業あるいは専攻科を修了して新たな旅たちをする学生諸君には、新しい社会で技術を学び続ける意思を持ち続けてください。そしてこれからも都城高専との繋がりに期待しています。最後に保護者の皆様、この紙面を通じて本校の教育と研究活動へのご理解とご支援にあらためて感謝申し上げ、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。



教務主事 山下 敏明



教育の質保証

生産年齢人口の減少、グローバル化、諸外国の台頭に加え、AIが多くの職業をとって代わるなど、困難な時代が到来しつつあります。したがって、学生が卒業後も自ら学び、また、生き抜く力を身につけ、技術者として活躍できるように、学校は学生を育てていく必要があります。そのためには、学校には「何を学生に教えたか」ではなく、「学生は何ができたようになったか」を念頭に教育を行うことが求められています。

このような観点から、学校は各学校の独自性や強みを保ちながら、学生に何を身につけさせられるのか、言い換えると、教育の質保証を明確にする必要があります。

教育の質保証の一つの指標に各学校が定めるディプロマ・ポリシーがあります。これは、どのような力を身につけた者に卒業を認定するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標にもなるものです。本校も本校独自のディプロマ・ポリシーを定めていますが、困難な時代を生き抜くためには、単に知識や技能を身につけるばかりでなく、自己を管理する能力、人間関係や社会性を形成する能力、課題対応能力などを養成できる教育も益々、取り入れていく必要があると考えています。

寮務主事 友安 一夫



未来への橋渡し ～エピローグ～

昨年度より寮の整備、寮行事の充実を掲げ、寮指導部一丸となり活動してきました。

今年度の新たな取り組みとしては、対面点呼を導入したことです。大切なお子さんを預かっている責任上、寮生の在・不在の把握は最重要項目でした。次に、昨年度から復活した映画鑑賞会は軌道に乗り、今年度も寮役員の運営により定期的に継続されています。また、本校は高専の海外展開事業におけるモンゴル高専の幹事校であることから、国際化推進校です。寮のほうでも国際化をにらんで留学生との交流カフェを定期的に継続しています。今年一番のニュースは、3年ぶりに高千穂寮の伝統行事である、夜間ハイクを復活できたことです。往復15キロ程度を友達としゃべりながら3～4時間程度で往復し、中間地点で豚汁とおにぎりを食べることが楽しみな行事です。寮生もなんだかんだと楽しんでいました。

さらに、11月より新寮生会が動き始めました。活動が停滞していた評議会を寮生会のほうで動かし、学生自らがより良き寮を目指し、活動を始めています。この2年間の思い出は尽きませんが、何とか次期寮指導部に未来へのバトンの引継ぎができそうです。

学生主事 若生 潤一



一年を振り返って

令和元年度は「全国」という言葉を耳にすることが多かった一年であったように思います。まず全国高専プログラミングコンテストが、10月にMJホールにて開催されました。電気情報工学科の白井先生と学生課学生係主任米満さんを中心に準備に当たられ、大会前日からは全教職員および多くの学生補助員のご協力をいただきました。学生補助員の皆さんが、全国の参加者の頑張りを活躍を目の当たりにし、何らかの刺激を受けてくれれば幸いです。また、ロボット製作局が全国高専ロボットコンテストに出場し、「ハットトリック！ポッポちゃん！」がアイデア賞を獲得しました。NHKの番組中でも都城高専の独創的なアイデアがかなり注目を集めていました。さらに、陸上競技部男子400mで3M岩佐君、少林寺拳法競技男子単独演武で3E吉永君がインターハイに出場し、女子剣道部は全国高専大会で優勝をしました。

高い目標を掲げ、日々何をすべきかを考え、行動し、しかるべき舞台で力を試すという経験は、結果の良し悪しによらず皆さんの人生の大いなる糧となるはずです。まだ何も目標が見つかっていない学生さんには、何かしら小さなチャレンジから始めてみることをお勧めします。

専攻科長 小原 聡司



九州大学工学部との 連携教育プログラム

現在、専攻科進学に絡む新しいシステム作りが進められています。それは九州大学(以下九大)工学部と九州・沖繩地区9高専が連携して、専攻科進学者の“一部”を九大3年生として共同で教育する「連携教育プログラム」です。

これは九大の持つ高度な先端研究能力・国際人材育成能力と、高専の早期専門教育経験者を組み合わせることに最大の目的と特徴があります。

2021(令和3)年度、九大工学部に新しく「融合基礎工学科」が設置され(物質・材料系と機械・物理工学系の2コース)、定員は通常入学約60名と、高専専攻科入学＝即九大3年次編入20～30名の計約90名です。

専攻科生のこのコース履修者は、1年次は各高専専攻科で学びながら、九大側のカリキュラムも遠隔講義や集中講義で受講して研究基礎能力を身につけ、2年次からは常時九大筑紫キャンパス内で本格的な研究活動を行います。学士号は通常の専攻科生とは異なり、九大から直接授与されます。

実際に専攻科進学者が九大側に入るのは2023(令和5)年からです。今の本科2年生からが対象ですが、九州・沖繩地区各高専専攻科入学者のごく一部(各校1～2名)がこのコースに入れます(建築系は対象外)。さあ低学年の皆さん、今から準備を始めてみませんか？

ようこそ学生相談支援室へ

共生時代の 学生相談室



学生相談支援室長
武田 誠司

本校では15〜22歳の学生が生活しています。

この年代は、ヒトの発育発達期においては思春期後期から青年期にあたり、身体も心も子供から大人に向けて急激に変化・発達します。その結果様々な欲求が発現し社会的な新しい経験や進路選択の課題も重なった学生は、悩んだり苦しんだりすることは当然のことであると思います。また、近年ではSNSによるインターネット上での人間関係のトラブルへの対応、発達障害などの障害がある学生への合理的配慮、性自認に違和感を持つ学生の理解、全ての学生についての自殺の予防・いじめの防止対策、経済的問題での支援など、学校は学生が困難に遭遇した時に問題解決までの見通しを持って、学生との相談・支援に取り組む使命があります。

そのような時代要請から学生相談支援室は、令和元年度の相談スタッフを増員しました。スタッフの内訳は、カウンセラーとして2名の臨床心理士、スクールソーシャルワーカー(SSW)として社会福祉士の資格を持つ専門職員、外部相談員として一般科目OB教員1名、内部相談員として本校の女性教員1名です。室長も合わせた6名で相談支援業務に当たっています。

しかしながら、困難に遭遇している学生の中には、問題の対応に没頭するあまり心の余裕をなくし、学生相談支援室に助けを求める行動ができない場合があります。そのような時は、学生を取り巻く「教職員」をはじめ「友人」や「家族」が心配に思う学生の事例について、学生相談支援室に相談を持ち込むこともできます。私達は、学生がヒトの助けをうまく活用しながら共生できる学校生活が構築できるように、学生支援に当たっていききたいと考えております。

スタッフ紹介



カウンセラー
(臨床心理士)
勝吉 恵美子

学外から毎週来られるカウンセラーです。



カウンセラー
(臨床心理士)
鮫島 奈緒美

学外から毎週来られるカウンセラーです。



スクール
ソーシャルワーカー
(社会福祉士)
小川 太一

学外から毎週来られます。個人的な悩みの相談。家庭に関すること。外部機関と連携して問題解決を図ります。



外部相談員
(本校教員OB)
森 寛

学外から毎週来られます。進路・勉強に関する相談を受けます。



内部相談員
(一般科目)
田村 理恵

女子学生の相談、勉強に関する相談を受けます。

保健室からひとこと



勉強、進路、交友関係、クラブ活動、自分の性格など悩み多い学生生活ですが、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になるものですよ。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。

保健室は楽信館の1階にあります。看護師2名が面談の最初の窓口になり、カウンセラー等の面談日時の調整を行います。「この程度の相談でもいいのかな?」と思っている学生は、まずは保健室に足を運んでみてください。メール等で連絡することも可能です。カウンセラーの来校日は、教室掲示板に毎月の予定を掲示しています。

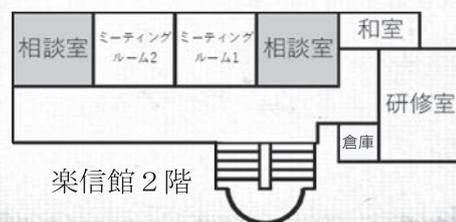
学生相談支援室の利用について

毎日の生活の中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合ってみましょう。相談の申込は以下の方法で受け付けています。

- ・直接スタッフへ：武田室長、田村相談員、看護師へ
- ・電話による申込：0986-47-1156
- ・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-nct.ac.jp

友達やご家族の方と一緒に来室されても結構です。相談は必要に応じて何回でも継続できます。

相談室の場所はこちら



一般科目
関 幹雄



着任にあたって

平成31年4月に、一般科目文科(国語科)に着任しました関幹雄と申します。

気がつけば着任よりはや1年が経つという時の流れのはやさは、充実した今年度の活動を物語るかのようです。

昭和の終わりに生まれ、福岡で育ち、平成の終わりにここ都城に参りました。時代は令和へと移りましたが、その元号のように温和な学生・教職員の皆様に囲まれて、日々を楽しく過ごしております。中国の古典に由来する「而立」という言葉があります。春秋時代に生きた孔子が三十歳を迎える頃には、弟子たちが集い、教え導く者としての自己の立場を確立しはじめたのだと考えられています。私も今、三十代前半にして教育の道に歩を進めました。教科として国語や文章の授業を担当しておりますが、どこまで言及して良いのか、またどれほどのレベルを要求すればよいのかという力加減に難しさを感じています。自分の立場を確立するにはおほど遠いですが、この場で何をできるのかということをお願いしながら、面白い人間になるべく努力いたします。

至らない点も多々あるかと思いますが、日々精進して参りますので、今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。

一般科目
中島 里紗



着任挨拶

2019年4月より一般科に着任いたしました、中島里紗と申します。授業は1年生の化学を担当しています。私は2013年に高知高専の物質工学科を卒業し、大学に編入して博士課程を修了したのち、教員として高専へ帰ってきました。6年ぶりに高専に戻ってきて、学生時代に戻ったようなワクワクした気持ちが半分、教員としてのプレッシャーが半分というところでしたが、ようやく慣れてきたように思います。

初年度のこの1年は、担当している1年生と同じように都城高専での全ての行事(定期試験や体育祭、文化祭など)が初めての経験で、多くの先生方や職員の皆様、上級生の学生の皆さんに助けていただきました。また、自分が高専生だったころを思い出すことも多々ありました。学生の頃に私はどんな授業を先生にしてもらいたかったんだろう? どうやって試験勉強をしていたんだろう? 教員としての経験は浅いですが、高専出身という強みを生かして学生にとって分かりやすい授業ができたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

機械工学科
松本 良雄



着任のご挨拶

初めまして、本年度4月付けで岡山の津山工業高等専門学校より着任致しました、松本良雄と申します。教員になる前は、出身地の茨城の研究所で大学院生、博士研究員時代を過ごしておりました。現在、機械工学科にて助教を勤めており、5年生の機械力学、3年生の情報処理、1年生の設計製図や、他に卒業研究などを担当しております。

私の専門は理論物理学です。主に素粒子の現象論について研究しております。昨年度は異動で慌しく、なかなか研究に時間を割くことができませんでしたが、新しい仕事にもだんだんと慣れてきましたので、これから教育と研究で微力ながらも成果を出していきたいと思っております。

高等専門学校の学生の皆さんは、5年間という限られた期間で専門性の高い知識や技術を身につけることを要求されると思います。学年が上がるにつれ内容が高度になるスピードは速くなりますので、一般・専門科目問わず、低学年時の基礎が重要です。

「単位を取るために勉強する」のではなく、自分の能力にするべく基礎から真に理解して勉強する、という意思を持って頂きたいと考えております。知識を詰め込むのでは限界があります。内容の深い理解を手助けするために、要点を押えながらも丁寧に教えることで、学生自身の力で考えて問題を解くことができるようになれば、自分の教育の目標が達成できると考えております。

九州は本校に着任する前にも、福岡や宮崎などを訪ねる機会が多く、大好きな地方です。都城市は初めてですが、自然が豊かで食べ物も美味しいです。本校での教育と研究を通じて、地域に貢献できましたら幸いです。また、本校以外にも、九州地方の研究者の方々と交流する機会があれば嬉しいです。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これからよろしくお願い申し上げます。

総務課課長補佐(財務担当)

佐坂 則明



よろしくお願いたします。

4月から総務課課長補佐(財務担当)を担当しています。私は宮崎大学からの人事交流で現職に着任しました。他機関への異動、課長補佐(財務担当)の経験、都城までの通勤、どれも初めてのことばかりに不慣れなところがありますが、新しい気持ちで自分の役割や担当業務に取り組んでいきたいと思っております。人事交流の中でできること、やらなければならないこと等、視野を広げ都城高専の教職員の方々(私と同じように宮崎大学から赴任してきているの方々)とともに力を合わせ都城高専の発展のために尽力していきたいと考えています。そして自分自身の経験も高めることができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

最近、宮崎市自宅付近からも望むことができる霧島山に登ってみたいと思っております(もちろん車です)。

学生課長

鮫島 浩一



力を合わせてがんばります！

平成31年4月に学生課長に着任いたしました鮫島です。

宮崎生まれ（1968年）の宮崎育ち、宮崎大好き人間で、宮崎市内から約1時間かけて通勤しております。実家が近隣の小林市だったため、都城には、幼少の頃から家族で買い物に來たり、中・高校生時代には吉都線を利用し遊びにきたりと思いがあつたので、好きな街の一つです。

これまで、約28年間大学での事務に携わっており、総務系（庶務、人事、研究協力）の仕事をしてまいりましたが、縁あつて都城高専にお世話になることになりました。

着任当初は、初めての学生系の仕事ということで不安ばかりでしたが、現在では、学生個人の進路に大きく影響する仕事に携わっているという「やりがい」と「責任」を感じ毎日を過ごしております。これも偏に教職員皆さまの助けをいただいているおかげだと感謝しております（ありがとうございます。）。

この感謝を忘れずに、教職員皆さまと力合わせて都城高専の発展のために尽くす所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

後援会事務局

高崎 美代



着任挨拶

平成31年3月より後援会事務局に着任しました、高崎美代です。

私はこれまで、事務系の仕事をいろんな会社で経験してきましたが、学校という職場は初めてです。

後援会の仕事内容は会議資料の作成からプレゼン、学校行事に伴う準備等多岐にわたります。最初の2か月間は前任の早崎さんと引き継ぎを兼ねて一緒にしてきました。その後、いざ1人で仕事を始めるとわからないことや戸惑うことも多く、先のことを考えて不安にならないように、日々の業務に集中して務めてきました。その際、学生課をはじめ財務・総務など、たくさんの方々に助けていただき、今日を迎えることができています。そして、後援会役員・会員の皆様方と協力して、文化祭のカレーうどん作りを成功させることができました。参加して下さった保護者の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

これから、年度末に向けて予算検討や監査、最後の締め括りとなる代議員会・理事会と忙しくなりますが、より一層気を引き締めて業務に取り組んでいきたいと思ひます。

今後とも後援会活動を通じて学生を支援し、保護者の方々の交流の場となるよう微力ながら頑張りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

総務課人事係

神園 幸佑



都城高専へ着任にあつて

平成31年4月に宮崎大学より都城高専総務課人事係に配属されました神園幸佑と申します。

私は、平成27年に宮崎大学企画総務部人事課に採用され、今回の人事異動で都城高専へ赴任いたしました。過去に都城高専に一度訪問した際、学生さんから元気な挨拶をされたことが印象に残っており、着任を楽しみにしておりました。

業務では、同じ人事でも大学と異なることも多く、戸惑うこともありましたが、周囲の方々に支えられながら、まずは1年無事に終えることができました。宮崎大学では採用関係に特化した業務ばかりでしたが、都城高専では採用関係だけでなく、給与や保険、職員厚生と人事関連の様々な業務を経験し、非常に実りの多い1年となりました。特に働き方改革関連の業務はマニュアルにないことが多く、法律や高専機構の規則の勉強をしたり、労基署へ相談したりと多くの学びがありました。

2年目となる令和2年度は、これまでの経験を活かし、教職員の皆様の力になれるようより一層努力したいと思ひますので、今後ともご指導を賜りますようよろしくお願ひいたします。

総務課契約係

蔵満 信太郎



新元号とともに

平成31年4月1日より都城工業高等専門学校総務課契約係に着任いたしました蔵満信太郎と申します。

車いすを使用しています。この度ご縁をいただき皆様と一緒に働かせていただくことになりました。

私は前職での勤務体系がテレワークでしたので、今回このような多くの教職員や学生さんと携われる職場に新鮮な気持ちとやりがいを感じております。

働き始めた当初は、車いすを使用している関係でバリアフリー等の不安がありましたが、上司をはじめとする周りの方からのご支援やサポートを頂き問題を一つずつ解決することが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

早いもので、総務課契約係でお世話になり間もなく一年が経とうとしております。仕事内容や業務の流れを理解できるようになり、自分に何が足りないのか、今後何をすべきなのかを痛感しているところです。

元号が平成から令和にかわり、新しい時代の幕開けと共に新たな環境でスタートを切ることが出来、とても感謝しております。まだまだミスも多く何かとご迷惑をおかけしますが、ご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

退職にあたって

この3月を持ちまして、39年間の都城高専での教職生活に終止符を打つことになりました。大学卒業後、2年間県立小林高校での勤務生活を経ての転職でした。当時はまだ若く、都城駅から高専までタクシーに乗って、運転手さんから、「えーっ！学生さんかと思ってました。」と言われたほどです（ただ、これには「その時帽子をかぶっていた」というオチがつかのですが）。

この39年間で、都城高専は大きく変わりました。そのターニングポイントは、教職員の立場からすると、「専攻科設置」と「独立行政法人化」でしょう。この2つを契機に、教職員の忙しさに拍車が掛かって来ました。特にこの10年間は、定員削減があり、委員会も次々に増え、ほとんどの方が将来に不安を抱えていることだと思います。高専での「働き方改革」がしっかり実践されることを望んでやみません。

学生諸君の立場からすると、転職は、「JABEE」でしょうか。「国際的に通用する技術者」を目指して、英語の授業も変化しました。4年生は、TOEICに関する授業をやるようになりましたが、990点満点のこの試験で、「400点」を目指そうというのですから、半分以上できなくて当たり前の問題をやらせるのは、教員としてやるせないものがありました。それでも素直に問題に取り組む学生諸君を見ると、ありがたいなと思いました。

末尾になりますが、39年間無事に勤めて来られたのも、学生諸君・保護者の皆様・教職員の皆様のおかげと感謝しております。皆様の今後の幸せを祈って筆をおきたいと思います。



一般科目
西村 德行

退任挨拶

私は平成29年4月に物質工学科助教として着任し、3年間勤めてまいりました。本校では寮指導部、サッカー部顧問、モンゴル高専支援、少年少女科学アカデミー、学内アイデアソンの支援、高専機構では新任研修の支援をさせて頂くなど多種多様な成長の場を頂きました。ご支援頂いた教職員の皆様に感謝の意を表します。

私の3年間で一番の思い出は研究室での生活になります。黒田研究室では、環境問題や農業の地域・世界課題に取り組んでおり、学外から学生が毎年賞を頂くなど一定の評価を頂くことができました。研究に専念できる環境を整備して下さった物質工学科の教職員の皆様、事務処理等で大変ご迷惑をおかけした事務職員の皆様、私の指導に最後まで付いてきた研究室の皆さん、そして保護者の方々へ心より感謝申し上げます。

私は本校で得られた貴重な経験を糧にさらなる成長を目指し、4月より産業技術総合研究所北海道センターに研究員として着任します。私自身が鹿児島高専出身なこともあり、高専生の成長を支援したいという強い思いで高専教員に着任しました。しかし、世界一の高専生を育てるためには、私自身がより厳しい環境に身を置き、さらなるレベルアップが必要だと気づきました。ここで申し上げたいことは、私が決して後ろ向きな気持ちで本校を退任するのではなく、高専生の成長を支援できる能力を身に付けるため、新たな挑戦への道を前向きに歩んでいるということです。私はいつでも高専の益々の発展を願っております。3年間大変お世話になりました。



物質工学科
黒田 恭平

退職にあたって

1981年、都城高専に赴任して39年、長い歳月を都城で過ごしてきました。高専では様々な校務を務めてきました。最初の担任は1年生で、彼らが卒業したのが平成元年、昨年50才を迎えたのを機にクラス会が開催され、懐かしい面々と再会する事ができました。クラブ活動では、美術部や茶道同好会の顧問となったのですが、茶道では、茶室や数寄屋建築についても学ぶことが出来ました。その他、専攻科立ち上げの仕事に携わった事が、最も感慨深いものとなっています。

授業は主に建築の歴史が担当で、建築史の授業は日本・西洋・近代建築史の3科目です。私の専門は数寄屋などの日本建築史ではなく、西洋建築史で、古代ギリシア建築について研究しています。幸いなことに、熊本大学が主催する古代ギリシア建築実測調査に参加する機会を得、1994年から2010年まで殆ど毎年、ギリシアを訪れることができました。2011年からの4年間は都城高専で調査団を組織し、本校学生をギリシアでの調査に連れて行くことが出来たのは嬉しいことでした。調査期間は平均1ヶ月程度で、最長2ヶ月を超えることもありましたが。長きにわたって、無事、教員生活を続けてこられたのは、調査期間だけでなく、日常的にも、先生方や技術員、事務員の方々、それに学生諸君の理解とサポートが在ればこそです。唯々感謝しかありません。

最後に、昨年は建築史家として都城市民会館の保存運動に拘わってまいりましたが、解体という残念な結果となってしまいました。これは都城市にとって残念なことだと考えています。



建築学科
林田 義伸

謝辞

1991年4月に本校に35歳で着任し、本年3月末日をもって大過なく？退職できることに安堵するとともに感謝しております。この29年間、多くの教職員の皆様に助けていただき、何とか高専の教員生活を全うすることができました。心からお礼申し上げます。顧みますと、2000年代に入り、高専は変革の時代を迎え、本校にも専攻科設置、JABEE取得、認証評価、独立行政法人化と毎年のように次から次へと大波が押し寄せて参りました。しかし、本校は、その都度、優秀な教職員の方々の献身的な働きにより、これらの試練を乗り越えてきたと思っております。また、これらのことに、私自身も多少なりとも携わることができ、社会が求める高専の使命というもの考える良い機会を得たと思っております。さらに、私が高専教員として最も幸運だったことは、奥野守人氏や井上朱美氏をはじめとする技術職員の方々のご支援を受けながら、卒業研究や専攻科特別研究を通して、多くの学生諸君と一緒に活気に満ちた教員生活を過ごすことができたことだと思います。29年間で137名の卒業研究生と10名の専攻科生とともに様々な研究テーマに取り組むことができました。私の研究室に所属し、決して容易ではない実験・研究に積極的に挑戦してくれた学生諸君にも感謝しております。

最後に、都城高専は多くの学生たちに夢と可能性を提供できる優れた教育機関であり、自分がその一員であったことを誇りに思っております。誇りに思っております。都城高専の今後の益々の発展を祈念し、私の退職の挨拶とさせていただきます。お世話になりました。



建築学科
原田 志津男

退任のご挨拶

私は平成25年4月から本校に勤務し、この3月をもって退職することになりました。7年の在職期間では、技術的な業務に加え、学生との接し方や学生への技術指導の仕方も学ぶことができ、近隣学校の理科教育に関わる経験もさせて頂きました。この間に教職員の皆様、学生の皆様には大変お世話になりました。厚く感謝申し上げます。

高専赴任後を思い返してみると、まず、低学年から専門科目や実験科目があることに驚きました。小さい時から理科が好きで、実験に憧れがあった私から見ると、とても魅力的な学校に感じました。また、そのような専門的な学習を懸命にこなす学生のみなさんをとても頼もしく思いました。そのような思いもあり、専門的な指導の際は、学習機会を損なわぬよう分かりやすく伝えることを心がけておりましたが、私の未熟さから思うように伝えられず学生の皆さんには申し訳なく思っています。学生の皆さんは本校での学びを修了後、様々な方面に進まれると思いますが、ここで培った経験を糧に活躍されることを切に願っております。

最後になりますが、ここ都城高専の益々の発展を心より祈念して簡単ではありますが退任の挨拶とさせていただきます。7年間ありがとうございました。



技術支援
センター
安友 政登

退職にあたって

私が「都城高専」という名前を初めて耳にしたのは、進路指導の先生から高専進学を勧められた時でした。「高専は遠いから」という理由で断ったその高専で40年以上も働くとは、夢にも思っていませんでした。

採用された頃の事務の必需品は、「そろばん」、「リコーの青焼き機」そして「カーボン用紙」。公文書はタイピストが和文タイプ機で文字を一つずつ拾って打っていたそんな時代で、時間もゆったりと流れていました。

時は流れ、仕事は「パソコン」と「複合機」を駆使し、文書はメールであつという間に送信し…と、ひと昔前と比べると格段に仕事の効率化が図られていますが、その分、時間もあわただしく過ぎているような気がします。

都城高専では、長く会計事務に携わりましたが、常に心がけていたのは、「会計規則ではどうなっているかを必ず確認する。」ということでした。

尊敬する上司から、決裁に回した書類に対し、「この根拠は？」と聞かれ、「前もこうしています。」と答えると、『事務の一番の強みは、「前もこうしている。」ではなく、「会計規則ではこうなっています。」と答えられる事だよ。』と言われたのがきっかけです。そのおかげで今まで働いてこれたと感謝しています。

これまでは、都城高専の中からこの高専を見てきましたが、これからは一市民として都城高専を見守りたいと思います。長い間ありがとうございました。



総務課財務係
明日山 恵子

感謝

昭和50年5月学生課寮務係に採用され、平成27年3月退職、その後4年間の再雇用、40数年…勤務しました。振り返りますと多くの教職員、学生に出会いお世話になりました。一言では言い尽くせない数多くのことが思い出となっております。学生課寮務係に勤務して、寮生に係るお仕事をさせて頂いたこと、寮生の集団生活における人間形成、寮生各々の希望に対応してきましたが、期待に応えられたのか反省しています。学生から教えられる事も多々ありました。また、学生から若い英気も頂きました。

採用時から10年間は、寮生の給食に従事させて頂き、寮生の食事の管理、知識と経験を積み重ねていくことに自信がで、食事を通して寮生へ貢献できたこと、従業員の方々に支えられ温かく接していただき、多くのことを学んだことは一生忘れられない大切な糧となりました。それによって、現在があると言っても過言ではありません。

人生の半生を昭和・平成・令和と都城高専でお仕事が出来たことに感謝です。

2020年3月に都城高専（高千穂寮）は去りますが、教職員の皆様、学生との出会いで得られたことを忘れることはありません。

教職員の皆様のご多幸と本校の発展を祈念します。

長い間お世話になりました。感謝申し上げます。

【そして令和の時代に“ONE TEAM”】



学生課寮務係
松山 恵子

お世話になりました

私は平成28年4月1日より事務補佐員として学生課教務係に採用になり、4年という短い間でしたが、この3月で退職することになりました。

教務係は学生と関わる人が多いので、たくさんの学生の楽しんでいる姿、頑張っている姿をみることができ、毎日飽きることなく、楽しく過ごすことができました。初めは学生の言っていることが分からず、対応が遅くなり、迷惑をかけたことかと思えます。学内放送をすることもあり、声が震え、言葉を囁んでしまうこともありましたが、楽しい仕事の1つでもありました。

最後に、教職員の皆さまには大変お世話になりました。特に学生課の皆さま、学科事務の方々にはたくさん助けていただきました。

4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



学生課教務係
山内 陽子



未来へ ～足跡と絆～

5年担任 藤川 俊秀

機械工学科5年生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。併せて、クラスの担任を仰せつかりました二年間、クラスの運営、授業や部活動、卒業研究などに真摯に向き合い、熱心に学生のご指導を賜りました教職員の皆様に篤くお礼申し上げます。

2018年4月に、機械工学科4年生の担任を仰せつかったとき、不安という気持ちはなく、如何にして皆さんとともに歩んで、将来の「輝かしい未来」を一緒に築くことができるかを常に考えていました。まずは、次年度の就職・編入学・進学の際の面接に対応できるように、目上の方への言葉遣いや態度などについて、ときには「きびしく」、ある時にも「きびしく」、私の情け容赦のない愛のかたちに、全員がついて来てくださいました。皆さんには、ご迷惑をお掛けしたことを思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

2019年4月に、5年生の担任を仰せつかったとき、私はなぜか自信に満ち溢れていました。それは、私が仰せつかったクラスの学生の皆さんは学力だけでなく、自立性や人間としての信頼性が著しく向上していたからです。自分だけの欲得にとらわれず、周りに困っている人がいれば、その人を「Happy」にする術を皆さんは知っていました。お互いが心素直に自分の弱さを認め合い、前向きに支え合える仲間(皆さん)が目前にいました。また、皆さんは物事に対して地道に取り組み、努力することの大切さ、すなわち「物事を食欲に、深く学ぶ姿勢」が自然に身につけていました。この5年の歳月で仲間を大切に生きてきたように、これからも、自分自身を愛すように他人をも愛してください。その人は自分自身だから。

【知とがんばり】

お願いが1つだけあります。高専で学んできた「知」と「がんばり」は、困っている人々を助けるために、その人々を「幸せにする」ために使ってください。これからの日本を支える「人財」になってくれることを心から願っています。もちろん、最短距離を進む必要はありません。遠回りをして、結果的には最短距離の道を見出すことができるからです。ときには「大胆に」、ときには「繊細に」ご自身を信じて、前向きに心素直に進んでください。

【運・鈍・根】

大きな仕事をされた先人の多くがよく言われることは、「運・鈍・根」です。「運」は、自分の力では如何ともし難いと思われがちですが、日頃の行動によって巡って来るものと私は思っています。誠実な姿は、記憶に残るものです。

「鈍」は、周りに流されず、自分の信ずることにしたがって、長く続けることです。「根」は、自分の努力そのものです。これもその人の生き方で決まります。これらができれば、必ず結果が付いてくると思います。この姿勢は、皆さんには身につけていると思います。

【背中を押してくれた方への感謝の気持ち】

世の中には、夢半ばで自分の思いを成し遂げられず、悔しい思いを胸に頑張っている人もいます。皆さんが卒業されてから、もし、この文章を読まれているのであれば、これまで皆さんを励まし、しんどい時には背中を押し、頑張ったことに対して褒めてくださった方々に感謝の言葉を伝えてください。そして「感謝の気持ち」を忘れず、皆さんは次の世代の人たちの背中を押してください。人は、応援してくれている人がいると思うと、それだけで自信につながります。一瞬一瞬を大切に、人を大切に情熱と信念をもって今後の人生を歩んでください。

【最後に】

皆さんの担任で幸せでした。本当にありがとうございました。高専時代を思い出したくなったらいつでも高専に足を運んでください。先に述べた「知とがんばり」、「運・鈍・根」、「感謝の気持ち」を思い出させてくださる先生方が皆さんを待っています。今後の皆様のご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉にかえさせていただきます。



卒業によせて

5年担任 田中 寿

令和元年度（平成31年度）電気情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。併せて、ご支援いただきましたご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。私自身4、5年の担任は初めてであり、卒業後の進路をお世話できることの喜びと経験不足からくる不安な気持ちが半々の中でスタートを切りました。

皆さんとの関わりは、学生主事補として入学後の1年生研修が最初でした。前年まで1泊2日の宿泊研修でしたが、1日の学内研修に変更した最初の学年でした。実際に活動した皆さんは、こういうものだとか割り切っていた部分もあるかと思いますが、入学式を終えて間がなかったにもかかわらず楽しく活動している様子を見て、高専生活にうまく溶け込んでくれるのではないかと感じました。4年のクラスマッチは、活発に活動している様子、応援している様子を見て、良い雰囲気の中で担任ができるのではないかと感じました。2年間において、バレーボールの優勝とバスケットボールの第3位の成績は嬉しく感じました。4年の文化祭では、「Smart Life」と呼ばれるアプリケーションを作成し発表しました。電気情報工学科における皆さんの体験から生じた問題に焦点を当て解決に取り組みましたが、調査し、試行錯誤し、悩みながら作成する過程は、技術者として社会に出る前の良い経験になったのではないかと思います。翌年3月には研修旅行で台湾の企業を訪問しました。現地の方と英語やジェスチャーを用いてコミュニケーションをとっている姿は印象に残っています。10月には都城でプログラミングコンテストが開催され、展示や競技、運営スタッフとして頑張ってくれました。体育競技会での応援演舞は、放課後の限られた時間の中で練習に取り組んでいる姿に感心し、当日はまとまりのある素晴らしい演舞に感動を覚えました。

卒業後の進路について、5年生は4月の始業式前から就職活動が始まりました。今年度は704社の求人があり、うち200社の企業担当者が来校されました。高専生への実践的技術者

としての期待が大きく、また、卒業生の活躍が大変評価されている現状を聞くことができました。クラスの45名中30名が就職し、技術者として社会に貢献することが期待されます。また、15名の学生は、さらに専門の知識や技術を学ぶべく専攻科進学、大学への編入学、専門学校への進学の道を選択しました。4月を迎えるとそれぞれの進路先で新たな環境の場を迎えます。戸惑うことがあるかもしれませんが、皆さんがこれまで経験してきたことを思い返し、落ち着いて行動すれば早く環境に慣れることと思います。

進路を決定するにあたり、皆さんは少なくとも一度は履歴書やエントリーシートを作成したかと思います。その中で、「自己PR」を記載する欄があります。また、面接においては、必ずと言ってよいほど「自己PR」または「自分の長所」を聞かれます。これは、「何をやってきたか」あるいは「何ができるのか」が問われています。社会人として働く人、学生として学問を究める人どちらにも言えることですが、知識や技術を学ぶために積極的な姿勢で臨めるかどうかの大事になります。入社後数か月も過ぎれば新入社員と言われなくなります。その時にどれだけ知識や技術を身に付けたかを自己分析し、自分の強みを伸ばしてほしいと願います。そして、自分の履歴書を更新してほしいと思います。

元号も変わり、東京オリンピック・パラリンピック開幕まで200日を切りました（執筆時）。この大会では5G技術や顔認証技術サービスの導入など新技術が披露されることになると思います。一技術者としてこれらの技術に関わると大きな経験になることでしょう。皆さんには体力と柔軟な対応力があります。これらを強みとして、新たな技術を生み出す次世代の技術者となってください。皆さんの今後のご活躍を心より祈念いたします。



（撮影：タナカ写真館 田中裕二様）

卒業おめでとう

5年担任 野口 大輔

平成31年度都城工業高等専門学校物質工学科5年生の諸君、卒業おめでとう。

心から喜びの気持ちを表します。また、ご家族の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

私と諸君との出会いは4年生の始業式の時でした。低学年時は皆さんとの接点が全くなかった私にとって名前と顔が一致するのに1ヶ月程度かかったことを思い出します。皆さんと過ごした2年間は色々なことがありましたが、私自身、諸君に助けられながら日々成長し、今となっては全てが良い思い出となっております。

今、諸君の今日に至るまでの歩みに思いを巡らします。

新しい経験へ踏み出し、新しい自己を発見し、輝かしさと喜びを知った人。成熟した知性をもって自己管理し、日々の営為を目的意識的に追及できた人。あるいは、大きな困難や失敗に見舞われ、悔恨と反省に自身を染めた人。どの人のどの経験も、諸君を一段上の人間の高みへと導きました。今、諸君は、知的で人間的に美しい、凛とした顔立ちを見せます。そういう諸君を送り出そうとするとき、私たちはこの上なく晴れやかな気持ちになります。

諸君は、自分の人間的力、心の広さと豊かさ、魂の高さを信じてください。時代がどのようなであれ、人間と社会のありようを考え抜き、その結論へ向かって実践していく、そうして生きていくことの喜びを知ってください。諸君は十分そういう人間として育ったのです。

諸君はどこに居ようとも、私たちの自慢できる存在です。この地から、私たちや諸君の後輩は、ずっと諸君の歩みを見ています。諸君は次代の人間と社会を担う、光を放ち続ける一等星です。

最後に就職および進学先を紹介します。今年度の就職は、好景気のおかげもあり、多くの学生が希望の職に就くことができています。しかし、先生方の努力、本校の伝統、そして何よりも諸君の努力の成果だと思えます。



【就職先一覧】

日本原子力発電株式会社・旭化成株式会社3名・ノックス株式会社2名・株式会社ディスコ・大阪シーリング印刷株式会社2名・花王株式会社3名・中外製薬工業株式会社2名・日東電工株式会社3名・DIC株式会社・デンカ株式会社・日本アルコール産業株式会社・東洋インキSCホールディングス株式会社・第一三共プロファーマ株式会社・JXTGホールディングス・東レ株式会社2名・出光興産株式会社・大日精化工業株式会社

【進学先一覧】

都城高専専攻科8名・高知高専専攻科・熊本大学・広島大学・新潟大学・富山大学



記念すべき年に新たな旅立ちを祝して

5年担任 加藤 巨邦

建築学科5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

私は皆さんと同じ年に本校に着任しました。初めての学校でしたが1年次には皆さんの副担任となり、当時の担任であった小原先生の計らいもあって、1年次から皆さんと接する機会を多く持ったように思います。その後、2年次、3年次、4年次と連続して授業を受け持ちました。更には4年次からは担任となりましたので、本校での5年間は、皆さんと共に歩んできたように思います。また、授業以外においても、1年次から5年次まで、放課後に教室で色々な話をしたことを思い出します。

このクラスの皆さんは、学校行事等に多く携わっていました。特に、4年次の“第54回高専祭”では、実行委員長を筆頭に総務会や大半の局に局長及び局員として参加し、高専祭を裏方として支えながら且つ盛り上げてくれました。その上で、4年次の研究発表に関しても手を抜くことなく、結果的には素晴らしい発表と優れた作品を製作してくれました。担任としては“いつ勉強しているのか？”と疑うほど、時間とエネルギーを注ぎ込んでいたように思います。そして、ここで落ち着くのかと思いきや、その後は、このクラスのメンバーが学生会の会長、副会長、会計、総務を務めることになり、実質的にはクラスメイトがサポートもしていたので、結果的には5年次まで続いていました。計り知れないパワーを持ったクラスでした。“あっぱれ”の一言に尽きます。

皆さんは東京でオリンピック・パラリンピックが開催される記念すべき年に卒業することになります。東京が中心ですが、オリンピック関連の新しい建物が、最新の技術を織り込んでたくさん建設されています。また、これからは外国から

たくさんの方が来日することでしょう。絶好の機会ですので、皆さんが持ち合わせているパワーと行動力で、新しい建物を自分の目で見て最新の技術を学ぶとともに、来日されている外国の方にも積極的に話かけることによって海外の異文化にも触れてください。そして、グローバルな視点を持って次なる時代を皆さんが築き上げてください。

最後になりましたが、先日良い話を耳にしましたので、ここに紹介して、はなむけの言葉にしたいと思います。

社会人になると色々な人とコミュニケーションを取らなければいけません。このコミュニケーションにおいては「話す」ことも重要ですが「聴く」ことが非常に重要になってきます。この「聴」という漢字を分解すると、「耳、十、四、心」となります。即ち、「聴く」とは「十四の心を持って耳を傾けること」と解釈もできます。ここで、この「十四の心」とはどのような心なのかというと、「美しい心」「新しい心」「広い心」「楽しい心」「嬉しい心」「面白い心」「微笑む心」「素晴らしい心」「悲しい心」「苦しい心」「愛しい心」「労わる心」「憂う心」「感謝する心」を意味しているとのこと。

卒業後、このような心を持って、相手の身になって耳を傾けるという姿勢を身につけることができれば、相手との信頼関係をより深めることができるようになるとともに、たくさんの方の話を聴き出すことができるようになり、更には、相手との良好な関係を築いていくことができるようになると思います。

それでは皆さん、新しい世界で大いに羽ばたいてください。ご活躍を心よりお祈りしています。



今後の活躍を祈念して

専攻主任 白岩 寛之

専攻科機械電気工学専攻（機械系）2年生の皆さん、修了誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

皆さんが専攻科に在籍した2年間には、平成から令和への大きな歴史の転換点を迎える中、3人の日本人選手が陸上100m走で10秒の壁を突破し、また2018年には本庶佑氏が「免疫チェックポイント阻害因子の発見とがん治療への応用」でノーベル生理学・医学賞を、2019年には吉野彰氏が「リチウムイオン二次電池の開発」でノーベル化学賞を受賞するなど、日本人として誇らしいニュースが多くありました。一方、各地の地震災害や猛暑、大型台風などの異常気象による被害など、自然の前で人間の無力さを感じさせられる出来事も数多くありました。

本科5年間と専攻科2年間の計7年間の高専生活を振り返ると、ものづくりのために欠かすことのできない多くの知識と技術が身に付いたことに気付かされることと思います。特に本科5年の卒業研究から専攻科の特別研究と3年間にわたる研究活動を通して、自ら考え能動的に行動する力やチームワーク力が培われたのみならず、未知なる事象を探求することのおもしろさの一端を感じたことと思います。専攻科修了には学外での研究発表が必須となっており、本拙文の執筆時点において、日本包装学会第28回年次大会研究発表会（東京、1名）、日本実験力学会2018年度年次講演会（山梨、1名）において研究成果を発表しています。

進路については、2名中1名が就職、1名が進学となりました。様々変化する社会情勢の中で、各人が誠実に進路活動に取り組み、就職については、第一志望であるDMG森精機

株式会社に就職することができました。進学については、九州工業大学大学院（工学研究科博士前期課程生体機能応用工学専攻）の医工連携の研究室（生体流体工学研究室）に進学することになりました。お二人の今後の活躍を期待しています。



今年7・8月には東京オリンピック・パラリンピックを控え、2025年には大阪・関西万博が日本で開催されることになり、大きな歴史的転換点を迎えた改元後最初の年に皆さんは都城高専を旅立ちます。半世紀前を振り返れば、1964年の東京オリンピックと1970年の大阪万博を機に新幹線や高速道路といった社会インフラが飛躍的に発展し、現在の日本の礎となった時代であるといっても過言ではありませんでした。半世紀後に現在を振り返ったとき、おそらく日本にとっても世界にとっても大きな転換点を迎えていたことに気付かされることと思います。そうした中で、皆さんが今後の世の中に少しでも貢献できる技術者になってくれるものと信じています。

高専では知識や技術のみならず、クラスメイトや部活動のメンバー、教職員などの他者との関係において、コミュニケーション能力や協調性など自己を形成する様々な能力が育まれたことと思います。これまでお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、高専で培った様々な能力をいかに発揮し、まさに新しい時代の担い手として、何事にも情熱を持って取り組み、今後大いに活躍されることを心より祈念いたします。



春爛漫の日に

専攻主任 野地 英樹

専攻科2年生の皆さん、修了おめでとうございます。進路も無事決まり、次の活躍を前に力を蓄えている頃ではないかと思えます。今年度の就職については、ほとんどの企業が例年通りのスケジュールで採用活動を行ったため、順調に進路が決まってきました。機械電気工学専攻（電気系）2年生5名のうち、全員がそれぞれ富士電機、メタウォーター、ABBジャパン、FIXER、日東電工・関東事業所に就職しています。専攻科1年次のインターンシップでは企業経験ができるため、将来の進路を決めるのに大きな役割を果たしたようです。ある学生は東海オートメーションに行き、制御盤パネルの配置図作成や制御盤内の機器・部品の取り付けを行っています。また、ある学生はメタウォーターに行き、水処理システムの設計からアフターサービスまで製品の一貫した流れを体験しています。ABBジャパンに行った学生は、ロボットによる塗装の仕組みについて学んでいます。その他にも、FIXERに行ってAmazon Echoを使って出席確認システムを作成した学生や、日東電工・関東事業所に行ってタイムチャート通りに動くラダー回路を作るという課題をこなした学生もおります。こうして振り返ってみると、インターンシップ先が就職先となった学生が8割になりますので、皆さんが専攻科1年次から修了後の進路を考え、その考えどおり進路を決めていったことが分かります。

専攻科では外部での研究発表が義務付けられていますが、国際会議に参加した学生もおります。大田賢志君、岡留諒君、細屋直樹君はInternational Workshop on Fundamental Research for Science and Technology 2018（タイ）で発表を行い、大田君と岡留君はJSST（Japan Society for Simulation and Technology）Annual International Conference on Simulation Technology 2019（宮崎）にも参加しています。中埜友晶君、米吉洸樹君は電子情報通信学会・学生講演会（福岡）で発表を行っており、中埜君は電子情報系高専フォーラム（熊本）でも発表しています。

最後に簡単な私からのメッセージを記します。現在の日本では物質的に非常に恵まれた生活ができるようになっており、皆さんも働き始めればすぐにそのような生活が送れるようになるでしょう。人間が幸福な状態には、一つの条件としてこのように物質に恵まれた生活があります。しかし、古くはヒルティの『幸福論』に書かれているように、物質だけでは満ち足りた幸福感を得ることはできません。充実した仕事や、充実した生活が自らを幸福だと感じさせるのだと思います。充実した時間を過ごすには、好きなことをする、能動的に動く、自分の力を最大限に発揮する、難しい問題・状況をクリアする、夢や憧れに向かって努力する、何かに挑戦する等、様々あるかもしれません。皆さんは4月からそれぞれの進路で仕事に励まれるわけですが、ぜひ充実した日々を過ごせるよう頑張ってください。皆さんのご活躍を祈念しています。



初春の令月にして、

専攻主任 野口 太郎

専攻科物質工学専攻2年生の皆さん、修了おめでとうございます。また、この日を心待ちにしていたご家族の皆様におかれましても心よりお祝い申し上げます。

本科と専攻科を合わせると、皆さんは人生の中でも特に成長著しい7年間の月日を都城高専で過ごされたこととなります。振り返るとみなさんと初めて顔を合わせたのは本科1年生の基礎化学実験でした。初めて会ったときはまだまだ幼さも残り、実験を行う様子を見てもぎこちなく、不安感がこちらにまで伝わってきました。提出されたレポートを見ると「ボンボン跳ねた」「キラキラ輝く沈殿」など、オノマトベが多用されており、採点しながらも楽しんで記憶があります。その後、皆さんは授業や様々な学校イベントなどを通じて大きく成長されました。5年生では一年間通じて行った卒業研究を論文としてまとめ、立派に卒業研究発表を行いました。さらなる高みを目指して進学した専攻科では、普段の授業や課題に加え、専攻科特別研究にも多くの時間を費やしたと思います。その中では研究が思うように前に進まなかったり、学会など様々な発表の準備に追われたり多くの苦労・困難に直面したのではないのでしょうか。悩み苦しんだことも少なくなかったかもしれません。その度に指導教員と相談しながら、時には怒られながら、自らの努力で立ち向かったことと思います。皆さんの年齢でこれほど多くの時間を研究に費やし、経験をするのは、専攻科の特徴の一つでもあります。また、研究以外でも専攻科1年生の夏には約2週間にわたるインターンシップに参加し、大学や会社などで高専とは異なる雰囲気や、社会人と学生との違いに気付かされたことと思います。

これらすべての経験は皆さんを大きく成長させています。これまで受けてきた講義や研究内容そのものが会社や大学院での研究にすべて活かせるとは必ずしも限りませんが、

高専での経験を通じて物事に取り組む姿勢や責任、問題解決能力、計画管理能力など様々なことが身につけていると思います。実習報告会や特別研究の発表など専攻科の間にあったいくつかの発表を見ても、7年前にいた不安げな学生の姿はなく、堂々としていました。このような皆さんの成長は自らの努力はもちろんですが、多くの友人、そして保護者の厚い支援があったからこそ、ということをお忘れなくください。

今後皆さんは、都城高専を離れ、2名が社会人として会社へ、4名が大学院へと進学することになります。就職・進学のどちらにしても新しい環境になることに多くの不安があることと思います。中学校を卒業して以降、長い間、同じ学校にいた皆さんにとっては特にそうかもしれません。しかし、自信を持ってください。繰り返しになりますが、この都城高専で7年間経験したことは、皆さんを大きく成長させています。このような成長を自分自身で感じる機会はこれまで少なかったと思いますが、これから外に飛び出したときにきつとどこかで気づくはずですよ。

皆さんは都城高専において「令和」初の専攻科修了生になります。「令和」という元号は万葉集にある「初春の令月にして、気淑く風和らぎ、…」という文言に由来していますが、安倍総理によると、元号を令和に決定した際、「春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望と共に、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本人でありたい」という願いを込められたそうです。令和最初の都城高専専攻科修了生として、この春に新しい道に進むみなさんが将来への希望と共にそれぞれの道で輝かしく活躍してくれることを楽しみにしています。



贈る言葉

専攻主任 原田 志津男

建築学専攻修了生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。また、保護者の皆様には、お子様の専攻科修了を心からお祝い申し上げます。今年の専攻科修了生の皆さんは、記念すべき令和最初の本校建築学専攻の修了生になります。胸を張って次のステージに踏み出してください。

本校専攻科は、平成14年4月に当時の教職員の長年の血の滲むような努力により、ようやく設置することができたものです。しかしながら、設置当初の建築学専攻は、建設業界が不況であったことに加え、社会的にも専攻科の知名度が低かったため、専攻科修了後の進路を不安視する本科生が多く、学生を確保することに大変苦労しました。それでも、現在は、都城高専専攻科建築学専攻にも皆さんのような優秀な学生さんたちが入学してくれるようになりました。これは、ひとえに歴代の専攻科生たちが、在学時に国内や海外での学会発表、二級建築士などの資格取得および全国高等専門学校デザインコンペティション（デザコン）などにおいて多くの実績を残してくれ、専攻科が学生たちにとって自分の可能性をより一層広げてくれる学びの場であると認知されるようになったためだと思います。

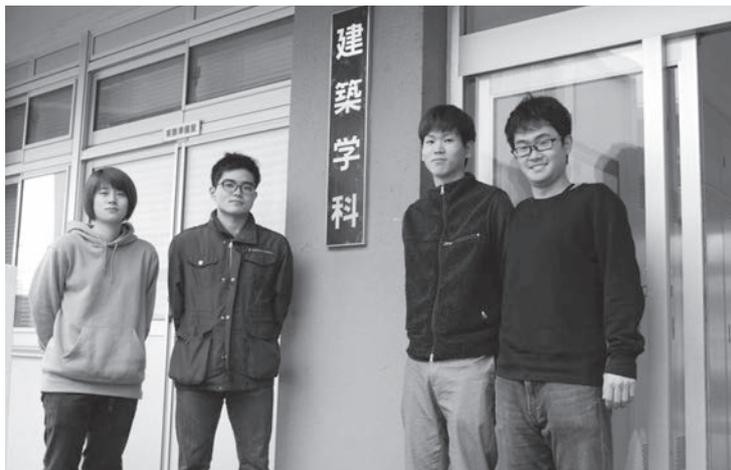
今年の修了生の皆さんも、全員が長期にわたって取り組んできた特別研究の成果を日本建築学会などで発表するとともに、すでに二級建築士を取得した学生もおられます。また、昨年度のデザコンでは、今年の専攻科修了生全員が「構造デザイン部門」もしくは「創造デザイン部門」にエントリーし、いずれの部門においても、中心的役割を担い、本科生たちをリードしながら精力的に応募作品の制作に取り組んでおりました。その結果、「創造デザイン部門」では、作品名「みんながつくる集いの蔵～宮崎県都城市市内町・社会実装プロジェクト～」で見事に審査員特別賞を受賞することができております。これまでも、本校建築学科では、「ものづくり部門」や「構造デザイン部門」での受賞歴はありましたが、「創造デザイン部門」での受賞は初めての快挙であります。今年の専攻科修了生たちが都城高専建築学科に

新たな輝かしい歴史を刻んでくれたと
思っております。

さて、今年度の建築学専攻の修了生は4名です。4名とも平成25年4月から令和2年3月までの7年間、すなわち、これまでの人生のほぼ1/3を都城高専で過ごしてきたこととなります。4月からは、

1名は大学院進学、3名が就職と新たな世界に飛び立っていきます。大学院に進学する修了生には、高専本科、専攻科で培ってきた知識・技術をより一層発展させ、長期的な視野に立って自分が専攻する学問分野での研鑽に励んでくれることを期待しております。彼にとって大学院前期博士課程が将来の自分をさらに飛躍させるための貴重な2年間になることを祈っております。一方、就職する3名の修了生は、全員、自分が志望する会社に採用されております。今は長いと思っていた学生生活をようやく終えることができ、希望に満ち溢れていることと思います。ところが、就職すれば、仕事ではもちろんのこと、業務とは別に当然のことにように1級建築士などの難関資格の取得を求められるなど、学生時代とは異なり、過程ではなく直接的に結果や成果物が重要視されるようになります。さらに、入社してからしばらくは、仕事では分からないこと、できないことばかりで、自分が如何に無力であるかということを知らされることになるかもしれません。しかし、そのときは、そこから逃げることなく、心と身体に汗をかきながら、ひとつひとつのことを着実に克服していってください。そうすれば、真の意味での「社会に貢献できる技術者」に20年後（42歳）、30年後（52歳）に成長できていることでしょう。

私も本年3月をもって、皆さんのほぼ4倍にあたる29年間お世話になった都城工業高等専門学校を旅立っていきます。お互い、健康に留意しながら、新しい世界で精進していきましょう。「未来の自分はきっと幸せになる！！」と信じて。



卒業記念

5年間を振り返って

卒業研究もいよいよ大詰めとなり、都城工業高等専門学校の本専生として過ごす学生生活も残りわずかとなりました。この5年間の歳月を振り返ってみると、たくさんの方々との出会いがあり、体育祭や高専祭などの楽しかった記憶が鮮明に蘇ります。特に私は、4年生での高専祭研究発表に深い思い入れがあります。私は平成30年度高専祭第4学年機械工学科研究発表責任者としてクラス全体を取りまとめる大役を務めさせていただき、トライアンドエラーを繰り返しながらも、研究テーマである「空飛ぶマンタ」をクラス一丸となって完成させることができました。その過程で、研究テーマの問題に対して、クラス全員の意見をどのようにして改善につなげるかについて私は苦悩しました。その経験はとても辛かったですが、憶測だけでなく物事を客観的・批判的に分析し、問題の本質を冷静に見極める力を身につけることができました。しかしながら、それ以上に得られたものは、5年機械工学科という仲間です。これまでの研究発表を初めとする様々な行事の中で学生が主体となりクラス全員で何かを成し遂げるとい

機械工学科5年 渡部 真将



経験は、他の教育機関では味わえない高専ならではのものであり、5年機械工学科の絆を深めるかけがえのない時間でした。5年機械工学科の皆さん今まで本当にありがとうございました。

都城工業高等専門学校で過ごした日々は、専門的な知識を得るだけでなく、仲間と絆を深める素晴らしい5年間でした。私たちがここまで頑張ってきたのも、熱心にご指導下さいました、担任の藤川先生をはじめとする機械工学科の先生方、並びに、低学年よりお世話になりました一般教科の先生方の愛のおかげだと感じています。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、来年度より私たちはそれぞれの道に進みますが、高専で学んだ専門性の高い知識と社会性を持って、認知準拠枠を増やしていき、自分が求めるアプリオリから脱却した本当の価値を見つける為に日々精進していきたいと思えます。

高専生活を振り返って

5年間、入学当初はこれから長いなあと思っていたのですが、過ぎてみればあっという間でした。光陰矢の如しと言いますがまさにそんな感じで、この5年間で時間の流れがとても早く感じるようになってしまいました。

光陰矢の如しで思い出したのですが、僕は5年間弓道部に所属していました。いま思い返すと、思い返すような思い出など何もないのです。というのも僕は幽霊部員だったからです。練習にも出ず、となれば当然大会にも出ず、そのくせ焼肉だけはごちそうになっていたような気がします。ごちそうさまでした。皆さんそれでも仲良く接してくれてとても嬉しかったです。

さて、入学当初を振り返ってみると、友達はあるだろうか、勉強にはついていけるだろうか、と学校生活を不安に思っていたのを覚えています。特に留年に対して非常に恐ろしく感じており、1年生の頃は電気基礎Ⅱの勉強を必死でやっていました。定員41人に対してクラス人口が47人いたことにかなりビビっていた記憶があります。

電気情報工学科5年 田中 恒成



進級してからも微積や電気回路などなんだかよくわからんものばかりに触れ、何度留年するかもと思ったかわかりませんが、こんな僕でもどうにか無事？卒業できそうなので、後輩諸君は安心して遊び惚けてください。

我々のクラスを振り返ると、まあなんというか、独特の雰囲気があったなと思います。連帯感の在り方だったり、距離の置き方だったり、まあこれはこれで平和的解決手段のひとつだったと思うので、僕は肯定します。意見を戦わせて解決するのならそれでも良かったのかもしれませんが、このクラスではきっとそうはならなかっただろうし、これがいちばん安定した状態かなと思います。

この5年間で様々な人にお世話になりました。先生やクラスメイト、先輩後輩、司書さん、もちろん両親も……と数え上げるときがありません。末筆にはなりますが、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。心から感謝しています。皆さん、本当にありがとうございました。

卒業記念



高専生活6年間を振り返って

物質工学科5年 森木 翔也

入学してから卒業までの日々はとても充実して長かったように感じます。

入学当初は、中学生の頃から好きだった化学を学べる嬉しさと新しい環境へ飛び込む不安がとても強かったです。一年生の頃から学級委員長をしていましたが、中学のクラスにはいなかったような個性的な学生たちが多く、クラスをまとめ上げることが中々出来ませんでした。最後には独りよがりになってしまい、クラスの皆と対立してしまう事もありました。一方、学習面では中学から苦手意識を持っていた英語が克服できず、一年生ではギリギリで進級出来たものの二年生になって高専の進度の速さにもついていけなくなり、留年を経験しました。親にはさぞかし叱られるだろうと考えていましたが、予想に反して親から言われたのは「自分の人生だからね」の言葉のみでした。一見すると冷たいようにも感じますが、どんな叱咤激励の言葉よりも心に刺さりました。それからは、勉強を頑張ると決意し単位を頑張って取り返しました。一つ年下のクラスに加わるのは不安もありましたが、今となっては馴染めた

ような気がします。

そして高学年になり卒業研究を行う学年になりました。4年の3月から先輩と共に実験を始めました。初めは先輩と一緒に実験をしていたのですが先輩方が卒業し、殆どを一人で考えて動かなければならなくなりました。それと同時に就職活動も並行して行わなければならず、5年生は多忙だと聞いてはいたものの予想以上の忙しさに驚きました。夏休みには研究室の先生と学会に行き研究成果を発表しました。実験が上手くいかないときもありましたが先生や同級生、家族に支えられなんとか乗り切ることができました。

こうして高専生活を振り返るとたくさんの人々に支えられてきたと感じます。4月からは学生ではなく社会人の一人になります。高専での6年間で学んだことを活かしてこれからは自らが誰かを支える様な人間になりたいです。

高専での日々を共に歩んでくれたクラスメイトの皆、学習面だけでなく生活面でもご指導ご鞭撻頂いた先生方、日々の生活を支えてくれた家族に感謝します。



高専生活を振り返って

建築学科5年 加藤 大和

都城高専の入学式を昨日の事のように思い出します。5年間の高専生活もあっという間に過ぎ去りました。この5年間の思い出がたくさんあり、20年間の人生で最も濃密な5年間だったのではないかと思います。また勉強以外にも多くの事を学ぶことができた5年間でした。

私が高専について知ったのは中学1年生の時でした。その時は北海道に住んでいて、中学校の先生に勧められて、高専の存在を知りました。しかし最寄りの高専は隣の街の高専だったので行く気はありませんでした。中学2年生の時に都城市へ引っ越してきました。その際、都城高専がある事を知りました。それから本気で都城高専に入学したいと思うようになりました。その時から必死に勉強して都城高専に入学できました。そして今はその時頑張ったよかったと思います。辛い課題があり学校を辞めたくなくても、あの時の頑張りがあったから辞めずにすみました。

高専では5年間学級委員長を務めさせていただきました。

学級委員長になったきっかけは高専1年生の時担任の先生に学級委員長の仕事を任されたことでした。それからクラスの人から「委員長」と呼ばれるようになり、学級委員長を務める事に使命感を感じるようになりました。高専1年生の後期からは自分で立候補して学級委員長を務めるようになりました。学級委員長の仕事の1つである号令。私が休んだり、授業に遅れると号令がかけられません。なので必然的に学校を休んだり、授業に遅れる事がなくなりました。そのおかげでこの文章を執筆している現在(令和2年1月6日)まで皆勤することができました。おそらく学級委員長でなかったら皆勤など成し遂げられなかったと思います。皆勤が成し遂げられ(る予定)たのは学級委員長という仕事への責任感があったからだだと思います。この事から責任感の大切さを学ぶことができました。

最後になりますが、今までご指導頂いた先生方、常に支えてくれた家族に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

修了記念

7年間を振り返って

機械電気工学専攻2年 柳田 佳輝



7年間、都城高専に通学してきましたが、3月には専攻科を修了します。思い回してみれば、中学3年の夏、オープンキャンパスに参加した際に大人びた上級生の姿を見て、都城高専への入学を決意したことを思い出します。今では、この都城高専の中でも最上級生ではありますが、私もあの夏に見た上級生のような学生へと成長しているのでしょうか。この7年間を振り返ると定期テストの結果や普段の学習時間、勉強に対する態度など学業面で成長した部分があると思います。例えば、自ら文献を読み、さまざまな分野の学問に興味を持ち、勉強するようになったこと、授業や自習などで学習した内容を研究に応用できないか思考することなどです。このように成長できたのは、都城高専の先生方が学生に対して、勉強に興味を持たせるような分かりやすい授業を提供し、愛情を注いでご指導していただいたおかげです。私にとって、この7年間は長いようで短く、とても充実しており、今では居心地の良い環境となっています。

来年度からは、九州工業大学大学院、生命体工学研究科で血管内治療について研究する予定です。血管内治療の研究をすることは中学時代からの憧れではありますが、新しい分野に進むということは、すなわち多くの努力が必要だということです。これまで学んできた機械工学とは少し異なる分野ではありますが、都城高専で鍛えた機械工学の知識、持ち前の継続力と忍耐力で他大学の研究者に負けないような研究活動を行いたい。この生まれ育った都城を離れて勉学に励むことに不安を覚えますが、新しい研究室での研究活動に胸を躍らせながら、残り少ない高専生活をより充実したもの にしたいです。

最後に、このような恵まれた環境である都城高専に7年間、通学させていただいた両親、研究でご指導いただきました藤川先生、技術支援センターの福田先生をはじめとする教職員の方々に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

修了するまでを振り返って

機械電気工学専攻2年 米吉 洸樹



都城高専という1つの学校で7年間という小学校よりも長い期間を過ごしてきました。ですが、あと2ヶ月程で終わりを迎えようとしており、月日が経つのは早いと感じます。

本科では、良くも悪くも忙しい毎日を過ごしていたように思います。毎週のように出されるレポートに追われ、部活動に精を出し、家に帰らばご飯を食べるより先に寝てしまうというループに陥っていた記憶が蘇ります。そんな忙しい高専生活でしたが、友人や部活の先輩方に手助けしてもらったおかげで、悪夢のループから抜け出すことができ、文化祭や体育祭といったイベントも成功させることができました。中学生まで気の合う友達がおらず、割と一人で行動することの多かった私にとって、とても新鮮で貴重な体験をさせて頂きました。

そんな本科5年間を過ごしたこともあり、専攻科に入ってから他学科の人たちと関わることが増え、仲良く楽しく過ごすことができました。専攻科では、研究に専念するとともに、本科では体験することのできなかったユニークな

カリキュラムを通して、多くの知識や技術を得ることができました。特に、学科混合のチームで制作物を作り上げる創造デザイン演習において主体性・協調性・実行力を身に付けることができました。これも今までの経験があったからこそ、乗り切ることのできたのだと思います。

この文章を書くにあたって、改めて7年間という期間を振り返ると、とても貴重な時間を過ごしてきたのだと実感しています。そして今、本科で卒業した人とも盆休みや年末年始に集まって思い出話をしながら再び楽しい時間を過ごしています。都城高専で学校生活を送れて良かったと思います。これから私は社会人として新たな一歩を踏み出します。不安なことを数えればキリがありませんが、都城高専にいた7年間の思い出を胸に、これから社会という大海原で羽ばたきたいと思っています。

最後に、この7年間で充実したものへと豹変させ、ご指導頂いた先生方、今日まで支えてくれた家族や友人に心より感謝申し上げます。

修了記念



都城工業高等専門学校修了にあたって

物質工学専攻2年 蔵下 はづき

都城高専に入学してから七年が経ちました。私自身本科五年で卒業し、就職することを考えていたため、入学当初は更に二年間専攻科に通うことになるとは考えてもみませんでした。七年間の高専生活の中で大きな転機となったのは研究室配属でした。五年生から本格的に研究に携わるようになり、私の人生は劇的に変化しました。私は自分の研究に関する学会でのポスター発表や口頭発表を行う機会を多く頂き、その中で他の大学、高専の先生や学生の方と出会いました。高専の中だけではなく、外の世界に目を向け、見聞きすることができ、それが、自分の視野の狭かったこれまでの考えを改める大きな契機になったと考えています。同じ研究室に所属していた同級生の中で一番出来の悪かった自分でしたが、研究を行ってきたこの三年間で多くの評価をいただけるようになるまで成長することが出来ました。これは、自分の頑張りだけでなく、先生の根気強い指導と、周りの方々の支えがあったからこそだと

感じています。また、自分自身の能力を伸ばすためには、自分を成長させてくれると思わせてくれるような先生と出会うことが最も重要であると思います。これから進学を考えている本科または専攻科の学生の方々がそういった先生と出会えることを願っています。

本科五年の時に就職を考えていた私も来年度からは大学院へと進学します。環境が変化することへの不安は大きいですが、自分の意志を強く持ち、掲げた目標を達成するために尽力出来ればと考えています。また、都城高専で培った能力は今後の人生において自分の身を助けるとても重要なものであると感じており、これまで身につけた力を更に伸ばせるように、同年代の学生に負けずに今後も励みたいと思います。

これまでご指導頂いた都城高専の先生方、これまでの生活を支えてくださった両親、共に学んだ黒田研究室の皆様へ厚く御礼申し上げます。



7年間を振り返って

建築学専攻2年 赤澤 弘喜

都城高専に入学してあっという間に7年間という月日が経ちました。この7年間を振り返ると、本科では、徹夜でテスト勉強、部活、体育祭、文化祭の研究発表会など様々な思い出が蘇りますが、専攻科では、レポートや研究等で忙しかった記憶しかありません。

この7年間で最も楽しかった思い出は、シンガポールへ2週間の短期留学をしたことです。英語力の向上のために短期留学しましたが、英語の勉強だけではなく、ユニークな形状の建物や緑豊かな街並み、食べ物などシンガポールについて学ぶことができました。また、短期留学をしている仲間たちとマライオンを見たり、マリナーベイ・サンズの屋上に行き周りを見渡したりするなど、貴重な体験をすることができました。

他にも楽しかった事はありますが、悔しかったこともあります。それは、二級建築士の受験に失敗したことです。専攻科1年時に二級建築士試験を受験しましたが、合格点

まで1点足らずに不合格となりました。「二級建築士の試験は少し勉強すれば余裕で合格するだろう」という過信があり勉強を怠っていた私にバチが当たったと思います。このとき、私は何か物事に取り組むときは、どんなに自分の実力自信があつたとしても過信するべきではないということ学びました。不合格という通知が来たときは悔しかったですが、この経験から学んだことを将来の糧にしたいと思います。

私の高専生活は、楽しいことだけではなく、辛かったことや悩んだことも多くありました。そんな時、ご指導いただいた先生方や相談に乗ってくれた友人、先輩、後輩、家族に支えられ乗り越えることができました。彼らの存在なしでは高専生活を楽しく送ることはできなかったでしょう。今後は、高専生活で学んだ知識や経験を糧にし、周囲の人々に日々感謝しながら常に向上心を持って成長していきたいと思っています。

文化祭実行委員長 指宿 雅

皆さん、こんにちは。昨年の文化祭実行委員長を務めさせていただきました、4年建築学科の指宿雅と申します。代表して挨拶をさせていただきます。

文化祭では、「Colors」というスローガンのもと、一人一人が自分の色を発揮し、みんなが主役である文化祭にしようという意味を込めて、準備を進めていきました。実行委員のみんなをはじめ、先生方、深山会の方々、地域の方々、企業の方々などたくさんの方々にお世話になりました。褒めて頂いたり、迷惑をかけてしまったり、アドバイスを頂いたり、感謝の気持ちでいっぱいです。文化祭に参加して頂いたみんなが、各々の形で楽しんでくれて大成功できたのは、お世話になった方々のご協力あってのものです。本当にありがとうございました。

私が実行委員長になったのは、ちょっとしたきっかけが始まりでした。一昨年の高専祭の実行委員をしていた先輩に推薦していただき、私にその話が回ってきたのが始まりです。元々、楽しいことが大好きで、文化祭には積極的に参加し色々な係をしていた私なので、話を聞いたらすぐに「やりたいです!」と答えました。何も悩むことなく、真っ先にその言葉が出ていました。当時は、仕事内容もろくに知らず、軽い気持ちで判断していました。しかし、実際に私が実行委員長として文化祭が動きだしてすぐに、後悔しました。全体の進度の把握、確認、連絡など日々舞い込んでくる仕事、みんなとのコミュニケーション、時にはトラブルの仲介などもありました。精神面でかなり追い詰められたりしました。さらに、文化祭を例年より盛り上げるために後夜祭を開催したり、屋台数を増やしたりと、新しいことに挑戦した事もあり、厳しい部分もありました。しかし今思えば、みんなで数々の困難を乗り越えて、とても素晴らしい文化祭を作り上げられたことは、何ものにも代えることのできない私の宝であり、誇りです。全てをやり終えた今、後悔はありません。実行委員長を務めてよかったと、心から思います。

改めて、お世話になった方々、本当にありがとうございました。

簡単では御座いますが、実行委員長挨拶とさせていただきます。



機械工学科

『転ばない自転車』

山内 陸玖

私たち4年機械工学科では、「転ばない自転車」をテーマに前輪が二輪の構造となった自転車を製作しました。通常の自転車ではなく、前二輪の構造にすることになったのには理由があります。誰もが知っている後輪が2つの三輪車は安定性があるという点において非常に優れていますが、その反面、機動力を失ってしまっています。この安定性と機動力の両方を兼ね備えた自転車と考えた時に、前二輪構造の自転車を製作することが決定しました。

私たちはまず寮に廃棄されている自転車に目をつけました。実際に市販の自転車を使用することでコストも抑えられ、また廃棄されていた部品等のリサイクルにもなりました。実際に製作を始めまずは安定性と機動力を持たせる為に2つの前輪を平行に動かすことのできる「リンク機構」というものを作りました。作業の中で最も苦労したのは、このリンク機構とハンドル部分の接合

でした。機械科の先生方や学生と話し合いを重ね、様々な意見をぶつけ合った結果、ある一つに方法にたどり着き、なんとか接合に成功しました。他にもブレーキの調整や塗装などを行い無事完成させることができました。

文化祭当日には、試乗スペースにて試乗会を開催しました。急な提案で会場の設営や当日の案内など、どたばたになりましたが、多くの人に来てもらい前二輪自転車の安全性を体感してもらうことができ、物作りの楽しさや達成感を味わうことが出来ました。プレゼンでも実演を行って自転車の動きを見ていただきました。そしてプレゼン賞と最優秀賞もいただくことができ、4年機械工学科全体が一つになった気がします。

最後に、プレゼンターの河野君、栄君、4Mの皆さん、担任の土井先生をはじめ研究発表を通して協力してくださった先生方に感謝の言葉を述べさせて貰います。ご協力ありがとうございました。

電気情報工学科

『ロマン×リアル』

橋口 竜弥

私たち4年電気情報工学科は二つのテーマについて、ロマンとして「擬似ホログラム」、リアルとして成績管理アプリ「GMS」の研究・制作を行いました。

擬似ホログラムは、何も無いところに立体的に映像を投影するホログラムという技術を、アクリル板と光の反射を用いて擬似的に再現したものです。これを制作するに当たって、映像を映し出す装置を作る班と、映し出す映像そのものを作る班とに分かれて、それぞれぶつかる問題点を解決していき何とか完成させることが出来ました。本番では、実際にこの装置で初音ミクを映し出し、プレゼンターのアシスタントとしてプレゼンを行うことができ、クオリティはともかく目標は達成することが出来ました。

アプリ制作では、テストごとに成績管理を行ってくれ、落単や留年の近さを可視化出来るようにすることが目標でした。しかし、まとめ役を一人だけにしてしまったため、スケジュール管理とメンバーへの指示がうまくいかず、文化祭までに完成することが出来ません

でした。それぞれの役割をそれぞれの家で行う方法を取っていましたが、ほぼみんながアプリ制作初心者だったので、集まって制作する方法を取り、まとめ役にアシスタントを付けたりなど、自分以外にリーダーを任せる時には様々なこと考慮し、みんなが作業しやすくすることの難しさと大切さを個人的に学ぶことが出来ました。

今回の私たちの研究発表では、テーマが二つだったり、プレゼンターに人間以外を採用したりと、過去のパンフを見る限りでは初めてのことをいくつか行え、上手くいかないことや本番でのアクシデントなどもありましたが、とても充実していたと思います。様々なことを経験し、多くのことを吸収できた今回の研究発表は、私一人では決して出来ることではありませんでした。協力してくださった先生方はもちろん、リーダー慣れしておらず、まとめきれない私についてきてくれた4Eのメンバーへの感謝で締めたいと思います。ありがとうございました。

物質工学科

『徹夜のすゝめ』

豊永和希 望岡史弥

皆さんは「魔剤」という言葉を聞いたことがありますでしょうか。魔剤とはカフェインを含んだ、エナジードリンクの通称名のことで、テストやレポート等で徹夜しがちな高専生には欠かせないアイテムと言っても過言ではありません。そこで私たち物質工学科は、その魔剤を効果的に活用して、高専生の徹夜をサポートできないかと考えました。

まず魔剤の欠点として、飲んだ時に不快感がある、あまり美味しくないという意見がありました。不快感については、液状ではカフェインの吸収が一気に行われてしまう事が原因として挙げられたため、魔剤を固めてしまおうと考え、魔剤でグミ、ゼリーを作りました。実際に、消化をどれほど遅らせられたかを調べるため、食べてもらったり、胃を薬品で再現して溶かしたりしました。結果はグミの溶出が一番遅く、またグミ、ゼリー共に不快感は無かったため、固めて吸収を遅らせたのは成功だったと言えます。更に、ゆっくり吸収されるため、量を調節すれば効果を長く持続させることが期待

できます。しかし味の問題は改善できませんでした。そこでカフェインの代替成分を探してみると「L-チロシン」という、似た働きを持つ物質を見つけました。これは乳製品、果物等に多く含まれており、魔剤と同様にバナナとヨーグルトを食べてもらって検証しました。味は勿論問題なかったのですが、あまりにも量が少なかつたらしく、全く効果が得られませんでした。以上のことから、魔剤を「食べる」ことが最も効果的という結論に至りました。保存もし易く、調理も簡単なのでぜひ試してみてください。

最後になりますが、実は我々の研究発表は、中間発表の段階で制限時間を大幅に超え、且つ内容も難しく、酷いものでした。しかしそこから、プレゼンターの二人は本番前日の夜遅くまで資料を練り続け、本番では完璧なプレゼンをしてくれました。本当に感謝しかありません。また、忙しい中協力してくださった先生方、4Cの皆さんにも感謝申し上げます。ありがとうございました。

建築学科

『パビリオン建築』

野口 器

私たち建築学科は、文化祭当日に「パビリオン建築の建物」を設置しました。パビリオン建築と聞いても普通の人にはパッとイメージが浮かばないと思います。簡単に言うとパビリオン建築とは、展示会の役割を担うことができる建築物で、それに加えて建築物自体が高いデザイン性を備えているという特徴を持っています。そして今回は、休憩所としての役割も持たせようと考えたので、そこに椅子や机を設置しました。結果的に、当日はたくさんの人に休憩してもらうことができたので今回の試みは大成功だったのではないかとと思っています。

デザインの基になったのは、ブルガリアのヴァルナにある「ラパナ」という公共図書館です。ラパナには要らなくなった本や資料を置くことができ、自分の要らなくなった本とそこに置かれた本を交換することができます。その画期的な仕組みもですが、何よりもラパナのデザイン性に惹かれました。文化祭では公共図書館ではなく、高専自体や建築学科についての資料を置くスペースも設けました。

こちらの、デザイン性・休憩所・展示会の三つの機能を備えたハイスペックな建物が今回の研究発表の成果です。

余談ですが、建築学科の研究発表あるあるとして、設置開始が前日からしかできません。この条件をクリアするためには、まずクラスメイトをたくさん集めるということが大前提です。準備日に協力してくれたクラスメイトの皆さんには本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

最後に、本当にたくさんの助力をいただいた技術職員の先生方、研究発表に関わっていただいたたくさんの人たちに心からの感謝を送りたいと思います。本当にありがとうございました。





★機械工学科3年★ 『これまでとこれから』

岩佐 塔哉

私たち3年機械工学科は男子40名、女子1名、計41名のクラスで担任の佐藤浅次先生のもと日々学校生活を送っています。少し元気すぎるようなクラスで、仲もよく学校行事にも積極的に参加するクラスです。体育競技会や文化祭においても、積極的に実行委員などに入り、先頭に立って動く人も多く、決め事においても積極的に参加してくれているため、迷う時間も少なく非常に助かっています。ケンカやトラブルも少なく、非常に仲が良いクラスです。

勉学面では授業中に少し騒がしくなることがあるなど、改善しなければいけない点は多々ありますが、『こんなに成績の悪いクラスは初めてです』と言われた1年生の頃に比べ、自覚や将来を見据えて行動できるようになってきたと思います。ほとんどの人が部活動や同好会に入っており、両立を頑張っています。

去年に比べ、専門の数も多く、講義の内容も難しくなり、本格的な実験なども入ってきました。それに伴って課題やレポートの量も多くなりました。テスト期間などは何人かで集まって勉強を教え合うなどみんなで支え合いながら、取り組んでいます。

ただ、意識が出てきたとはいっても高いとは言い難いです。

工場見学や企業説明会など進路について考える機会も多くなり、これからクラス全体で進路についてよく考えていかなければなりません。来年度から本格的にインターンシップや企業説明会などが始まりますが、積極的に参加して将来への意識を高めていければと考えています。

今年1年間、いろいろなことを経験し充実した日々を送ることができました。高専での生活も半分が過ぎ、残り2年間となりました。学生のうちにしか出来ないことや、自分がやってみたいこと、興味があることを少しずつ見つけていければと思います。残された短い期間をさらに有意義にするために、持ち前の積極性を活かして、将来に向けいろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。



★電気情報工学科3年★ 『3Eでの一年間を振り返って』

片山 北翔

私たち3年電気情報工学科は、男子33名、女子2名、計35名の賑やかで、助け合いの多いクラスです。それぞれが特徴的な個性を持っており、いざという時のメリハリや、目標へと向かう姿勢は良いと自負しています。

今年は、去年に比べて、教科ごとの難易度が上がっただけでなく、専門教科の増加、実験レポートが始まったため、とても大変になりました。実験では、個人で行うのではなく、班員全員で協力して行わなければならないところを教えあう光景が度々見られ、これにより、クラス内の雰囲気が去年とは良い方向へ変わったのだらうと思います。

学校行事では、個人がやるべきことをやり、クラス内で協力することにより、良い思い出が作れました。クラスマッチでは、実験などで培ってきた団結力を確かめることができ、男子のバレーでは優勝するなど、去年よりも良い成績が残せるようになりました。来年は、文化祭で研究発表があり、様々なトラブルや問題が起きると思いますが、このクラスでの団結力で乗り越え、素晴らしいものができるようになれば

良いと思います。

3年生は、5年間の学生生活における振り返り地点ということもあり、進路に関する話も多く、クラス内でも大学の進学先、就職先などを考える学生も増えてきました。特に、インターンシップや企業説明会といった企業や大学の方と直接お会いできる場では、普段は聞くことや体験することのできないようなことができるので、積極的に参加し、進路への参考にできれば良いと思っています。クラスメイト全員で、残り2年間の学生生活をより有意義なものにしていきたいです。





★物質工学科3年★ 『3年生を振り返って』

下村 紗世

高専に入学して早3年がたちました。3Cのみんなや先生方のおかげで、毎日充実した学校生活を送ることができています。

3Cは男子23人、女子15人の計38人でとても個性に溢れた、刺激のあるクラスです。3Cのみんなは「このクラスは団結力がない」と口をそろえて言いますが、体育祭の競技や文化祭での学科開放、クラスマッチなどの学校行事でクラス全員が協力する姿や、見守って応援する姿を見ているとそんなことはないと思います。

この1年を振り返ると毎日様々なことがありました。10月には3年物質工学科の一大イベントである工場見学があり、神戸・大阪へ2泊3日で「三井化学」、「大栄環境」、「森永乳業」の3社を見学しました。それぞれの工場の特徴や取り組みを学び、初めて見る大きなタンクや機械に圧倒されました。工場に行ったからこそ聞いた話がたくさんあり、これからの進路選択を考えるための大きな参考になりました。2日目は自由行動で、大阪観光をしたり、京都で着物を着て街を散策したりと、自分の行きたい所、したいことをして

楽しみました。私はユニバーサルスタジオジャパンに行き、友達とジェットコースターなどのアトラクション全制覇を目指し、朝から夕方まで楽しみました。

11月の文化祭の学科開放では、子どもから大人まで楽しめる実験を考え準備をしました。多くの方々に来ていただき、化学の楽しさを伝え知ってもらうことができ、私たち自身とても良い経験になりました。

残り2年の高専での学校生活も、この個性溢れる3Cのみんなと楽しみながら、切磋琢磨し成長していきたいです。



★建築学科3年★ 『個性が強い!? 仲良すぎ!? みんな憧れるキラキラクラス 3A!!』

緒方 啓太

これから僕の愛する3年建築の雰囲気や様子、特徴を紹介していきたいと思います。僕が思うこのクラスの最大の特徴であり強みは、なんといってもみんなの個性だと思います。僕たちは定期的に1分間スピーチというものやっていて、何か自分の話したい事、やってみたい事、みんなに伝えたい事などをみんなの前に出て伝えるというものです。最初はみんな原稿を考えてきて、それを読むというものでした。そのせいで原稿を見ながら話す人が多かったです。ですが、2回目になると原稿を書いている人はほとんどおらず、話したいことだけを頭で考えてみんなの前から立ち上がって、その場の雰囲気に合わせて話していました。みんなの対応力や、緊張に負けない心の強さが見えました。この企画をやるとおっしゃった山本先生に対して、僕たちはみんな少しだけ、めんどくさいとか、だるいなあという気持ちがあり、最初はあまり乗り気ではなかったのですが、意外な人の意外な一面を知れたり、面白い話をしたり、変わったしゃべり方をして笑わせてみたり、自分の夢について熱く語ってみたり、時にはつい涙が出て

しまうようなことなどの、幅広い話を聴けてとてもいい企画だなあと感じました。この企画を考えてくれた山本先生には学生一同あっぱれです。

そして3Aは個性が強いだけではありません。とても仲が良いんです。僕たちがいかに仲がいいか、お教えしましょう。休み時間はみんなで集まってバカな話をし、体育はみんな全力で楽しんで、体育祭やクラスマッチでは作戦を入念に立てて、みんなで一生懸命取り組み、寮生は朝から寝る時までずっと仲間たちと一緒にです。ほかのクラスでは寮生と通生とで少し壁がありますが、3Aはそんなもの全くありません。むしろ仲が良すぎるくらいです。

僕は個性が強くて、仲がとてもいいこのクラスが大好きだし、誰一人欠けてほしくありません。このクラスのみんなと先生が会えたのは奇跡で、みんなで卒業まで思い出を作っていきたいです。残り二年間を大切に、そしていつまでも楽しい3Aのまま。一期一会、今のクラスを大切に!!



卒業生のみなさんへ

電気工学科OB 草野 二男

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます！電気工学科14期入学で現在、深山会関東支部支部長を務めています、草野です。これから社会人として一歩を踏み出す皆さんにOBとしての助言・アドバイスを少しお話ししたいと思います。実は、本寄稿については、深山会本部 久保会長さんから執筆の依頼を受けたものの何を書いてよいか悩みました。が、とりあえず、自分の社会人遍歴の中から皆さんにお話しできる事を探してみました。お役に立てるかどうか不安ですが読んで頂けたら幸いです。

さて、社会人になってからお話する前に少し高専時代のお話をしておきます。（後ほど出てきます、私の社会人人生に於いて大きな意味を持つ6年間ですの）

私は、昭和52年に電気工学科第14期として都城高専に入学しました。そして入学と同時に（実はその前の春の合宿から参加させて頂いたのですが）ラグビー部へ入部し、高専時代は部活に明け暮れる日々でした。でも、そんな中、全国高専ラグビー大会で本校初優勝できたことは今でも鮮明に記憶していますし、私の宝となっています。その反面（？）学業は不振を極めて、5年のところ、6年かかり何とか卒業することができました。

社会人となり、今年で36年が経過しました。従業員500名のF電機の子会社に入社し、会社の統廃合や組織変更等々を重ねてまいりましたが、やってきたこと（電気系のフィールドエンジニア）は全く変わらず今日に至り、何とかこの歳まで続ける事ができました。あとは何事もなく定年を迎える事を願い、日々会社の中でのプレッシャーと闘いながら過ごしている今日この頃です。

さて、ではなぜここまで来ることができたのか？・・・自分なりに振り返ってみますと、キーワードが3つ出てきました。「健康」、「人脈」、「笑う」です。

①健康・・・全てに優先されると思います。人間形成に於ける土台。ただ、健康なうちはなかなかこの重要性に気付けない方が多いのではないのでしょうか？無くなって本当にその重要性が判るといいます。この点はお陰様で6年間のラグビー生活が活きていると思っています。体力や精神力もその当時に培われたものだと感じています。この年まで大病なく、毎年の健康診断結果も良好です！⇒皆さん、「健康」の事、考えていますか？

②人脈・・・色んな意味で重要です。中には「反面教師」のような方もいるかと思いますがそこも含めてです。人脈は「金」では買えません！高専時代のクラスメート、部活の仲間はいまだに私の心の支えとなっていますし、久々に会うととってもリフレッシュでき、「明日からの活力」になります。⇒今のうちに一杯「人脈」を作った方が良いと思います！

③笑う・・・「笑う門には福来る！」その通りだと思います。少々嫌なことがあってもお酒飲んで「笑う」ことで紛れて次に繋がると思います。また、「笑う」＝声を出す、顔の筋肉を使う事で脳が活性化されると聞いたことがあります。

⇒是非、「笑う」事をお勧めです！

ま、その為にも「お酒を飲める健康な体」と、分かち合える「仲間」が必要ですね。

もちろん、上記だけでここまで来られたとは思っていませんが、重要な要素だとは思いますが、ご参考にされてみてはいかがでしょうか？

最後に同窓会の話少し・・・

皆さん、社会人になって関東地区在住になられた方、是非一度同窓会へ顔を出してみては如何でしょうか？1期生から51期生までいます！色んなお話や助言も得られると思いますよ。自分で言うのもなんですが皆、気さくな方ばかりで年代が離れていても楽しい話ができると思います。

<各支部の連絡先>

支部名	連絡先	入学	電話番号	メールアドレス
関東支部	草野 二男	E 5 2	090-2425-2478	kusano-tsugio@metawater.co.jp
関西支部	林 寛幸	A h 2	080-1467-7087	hayashi.hiroyuki@e5.kepco.co.jp
中部支部	富永 貢史	C 6 3	090-1070-3715	koji-tominaga@gmc.co.jp
中四国支部	木下 晴生	C h 6	090-4342-9482	h-kishita@tokuyama.co.jp
延岡支部	児玉 誠	M 5 6	090-7465-1755	kodama.mc@om.asahi-kasei.co.jp
宮崎支部	甲斐 慎二	A 5 1	090-8626-8896	shin-kai@mnet.ne.jp
都城支部	大西 昭伸	E 4 8	090-2078-7445	imo28imo@yahoo.co.jp
鹿児島支部	西 浩一	M 4 6	099-265-7500	genki-no1@trad.ocn.ne.jp
深山会本部	久保 秀夫	E 4 3	0986-47-1317	kubo@cc.miyakono-jo-nct.ac.jp

拝啓、後輩殿

工業化学科OB 富永 貢史

皆さん、こんにちは。私は、工業化学科25期入学で、深山会中部支部長の富永です。昭和最後の高専入学世代です。卒業後は、三重県四日市市の化学会社に就職し、合成樹脂製造プラントで製造技術者として働いています。就職して四半世紀が過ぎ、気が付くと宮崎に住んでいた期間を、三重県に住んでいる期間がいつの間にか超えてしまっていました。おかげで、日本語、諸県弁、三重弁と三言語を使いこなしています。

「学生の本分は、勉強です」というようなことを言われたことはありませんか？ じゃあ社会人とはいうと、社会人になっても何事も勉強です。経験と言い換えてもいいでしょう。私の会社人生を振り返っても、ずっと勉強(経験)でした。

就職すると、まず新入社員研修が行われます。短期間で色々な事を詰め込みますが、あまり記憶に残りません。私が覚えているのは、「四日市の空って、結構きれいだな。」ということぐらいです。その後は、勉強ということは全く意識せず与えられた仕事をこなすことで精一杯でした。しかし、仕事をこなすことは自分の勉強にもなっていて、自分が勉強したことが自分の仕事となって増えていく時期でした。20代終盤の頃、タイの系列会社でのプラント建設に携わる機会がありました。自職場と同じプラントをスケールアップしたコピーの建設です。プロセス、プラント運転、機器構造と、これまで学んできた事を再確認するいい機会となり、より深く自分の仕事を理解することができましたし、成長を実感できた時でした。さらに、英語ができない私にとって、6週間と短いながらも海外のホテル生活は、いい経験となりました。菓屋で英語もわからない店員に、ジェスチャーだけで菓が買えた時は、伝えようと思う気持ちがどれだけ大事か実感したものでした。

30代になると、「自分の仕事」から、「自分の職場」に目を向けた仕事が増えていきました。例えば、それまでは決められた手順の中で仕事をしていましたが、その手順を作る事が仕事になっていたり、工場全体のルールを検討する場で、自職場の実状を説明し、実状に合わせた解決策の提案を行うようになっていたりです。この時期には、他部署との交渉なども増え、より大きな視野で物事を見ることを学んだ時期でした。

30代から40代(現在)にかけて、マネジメント業務が増えていきました。生産管理、設備管理、労務管理などある中、特に人材育成が仕事の中心になってきています。自分が学んだことを、如何に伝えるかがテーマとなっています。端的に伝えようとすると言葉足らずになるし、詳しく説明しようとする、くどくどと説教のように長くなってしまい伝わらない。また、自分が常識だと思っていたことが、他者には通じない。まだまだ自分の勉強不足を実感します。私の会社人生は、これからも勉強の毎日が続きそうです。

仕事を通して「勉強」の話をしましたが、もちろん仕事以外のことも勉強です。普段の生活や遊びの中でも学ぶことは一杯あります。私自身、ここでは書けないようなことも学んできました。仕事で学んだことを普段の生活や遊びに活かし、普段の生活や遊びで学んだことを仕事に活かす。誰でも自然にやっていることです。要は、如何に学んだことを活用するかということです。中には「こんな勉強しても無駄なんじゃないの」と思うってしまう事もあります。この時本当に無駄と思ってしまうえば、無駄になります。無駄と思わず、何とかして自分の肥やしにしようと思うことが肝心です。見方を変えて、どう活かすかを考えているうちに、意外な形で結果が出ることもあります。「無駄無く」といいますが、無駄を切り捨てるのではなく、無駄にならないように活かすことを考えてみてください。

「学生の仕事は、勉強です」それは、卒業して社会に出てからも続く長い勉強に向き合う姿勢を養う場です。高専で培った学ぶ姿勢を忘れずに、社会で大きく羽ばたいてください。卒業生の皆さん、おめでとうございます。



都城高専の選択

鹿児島東支部 川越 聖子

私には三人の息子がいます。親としては、幼少期からできるだけ平等に接し、習い事やスポーツ少年団活動など同じように取り組みようサポートしてきました。当然ですが、個々の性格や考え、また友達や先輩たちの影響も受け進路等には違いがあります。

長男は、地元の高校へ進学し、当たり前のように大学を経て就職しました。二歳違いの次男は、兄と同じ高校には行きたくないと言い、学校説明会で高専に進学することを決め、都城高専と鹿児島高専のどちらかで悩んでいましたが、自分のやりたいことに合った、都城高専に挑戦し進学することができました。それから四年後には、不思議なことに、三男がそれまで高専に興味を示したこともなく、オープンキャンパスにも行かず進路相談でも高専進学を一言も口にすることが無かったのに突然、都城高専に行くと言い進学しました。

鹿児島から何のゆかりもない都城高専に次男・三男が二人とも進学するとは思ってもいなかったので少し寂しく思いました。

進学当初は、学校の様子も寮の事も全然分からず、次男、三男とも親に対してはほとんど連絡してこなく、不安でしたが、担任からのクラス通信で学校の活動を知ることができ、また、2人とも野球部に入っていたので応援に行ったときや後援会総会等で保護者の方々に子供の様子を聞くことで安心することができました。

高専に関しては、高校でもなく、大学でもない独自の空間と時間が流れている感じが、先生たちにも独特のものを、高専特有の

仕組みで知らないこともあり、親自身も学ぶことが多くありました。

子供たちには、自主性が重要視され、自由と責任が問われながら成長できるおもしろい所だと思いました。大学受験が無い分、時間的に余裕があり、専門分野を深く学ぶ事ができ、15歳から20歳すぎの学生がいて日常の中で社会のルールを学べ、また、先輩方の姿から自分の進むべき道を幾度も考える時間が与えられる素晴らしい環境だと強く感じました。その中で、次男は、就職と進学のどちらにするかを幾度も考え最終的に大学へ編入し大学院まで進み、本年度の就職内定をいただきました。

また、三男は、入学当初の成績では落第するのではないかと心配する状態でしたが、先生や先輩方からのサポート、また、自分なりに頑張り、進学を勧められるまでになりましたが、大学には興味が無いとのことで就職することを選び、こちらも無事に内定をいただきました。

今年度で卒業予定ですが、子供たちそれぞれの高専生活5年間で共に過ごした人々との交流は、人生の中でとても貴重な出会いであり、互いに刺激をもらい、これから社会に出てからも良き友として心の支えになることと思います。また、多くの先輩方や後輩たちにも恵まれたことも大変素晴らしいことではなかったかと思えます。

都城高専には、次男、三男で九年間通わせていただきました。何だかんだで、都城高専を選択した事は、親子共々、大変良かったと感謝しています。ありがとうございました。

環境が人をつくる

鹿児島東支部 伊地知貞行

表題は、息子が都城高専に入学してから、この5年間で私が一番実感した言葉です。

思い返せば、5年前の高校受験の受験先を決定する、中学校の三者面談前に息子が「都城高専の物質工学科に行きたい」と突然言ってきました。その言葉を聞いた時、私は「都城高専はレベルが高いから無理じゃない？」なんて、本人の決心を揺るがすような事を言ってしまったことを思い出します。

都城高専の推薦入試では、残念ながら本人の意思とは別に、結果は落ちてしまいましたが、一般試験で受験し直すのかな？なんて様子を覗いていたら、数日少し落ち込んでいましたが、【一か月後の一般試験で頑張る!!】と気持ちを切り替えていました。

それからは、塾に行くのも倍に増やし、学校から帰って来てからも自宅学習を、深夜まで真剣に取り組んで頑張っていたことを思い出します。そのような姿を目の当たりにし、【どうか、この子にチャンスを…!】と夫婦で願ったものでした。一般入試の結果発表で、中学校の校長先生より、勤務中ではありましたが、私に直接合格の連絡を頂いた時には、胸が熱くなり思わず涙ぐみ、言葉になりませんでした。応援して下さった皆様方に出来る恩返しは【とにかく、都城高専で精一杯頑張ること】と親子で話し合い、誓い合いました。

息子が親元を離れるのは、全く反対では無かったですが、寮に入るという事で、先輩や同級生と仲良くやっついていけるだろうか…。

いじめは無いだろうか？寮のルールを守るのだろうか？学校では勉強についていけるのだろうか…。もともと、人と接するのが好きで、人見知りをしない子であったので、大丈夫なはず!!と自分に言い聞かせてみたり、いや、あまり慣れ慣れしすぎて、嫌われるのではないか…?など、色々、心配が尽きないまま始まった都城高専生活。そんな心配をよそに、おかげ様で、クラスや寮等で友達が出来、友人と仲良く話している姿を見て、すごく嬉しくなったのを覚えています。同じクラスの子をはじめ、違うクラスの友達が出来たこと、部活動や同好会に入り、沢山の仲間が出来、一緒に頑張りぬいたこと、4年生時の高専祭ではイベントの司会をしたり、5年生時の体育競技会では、体育局長と物質工学科の応援団長までさせてもらったり、また、高千穂寮の役員をしたりと、学校や寮の行事などに参加し、色々な経験をさせてもらったと思います。

都城高専に入学し、また、高千穂寮に入寮してからは、初めての事が多く、分からない事が多いながらも、息子は精一杯努力をしたと思います。多分、都城高専じゃなければ味わえなかった経験を、沢山させて頂いたと思います。親元で育つ環境とは全く違う環境の中で、色々な経験や沢山の方々との出会い、それらの事が息子を成長させてくださったと思います。都城高専という学校の規則、高千穂寮の規則、また、先生方をはじめ息子に関わってくださった方々、この環境が息子の身体と心を育ててくれたと、心から感謝したいと思います。

特集Ⅳ こちら後援会

息子と都城高専と私

曾於支部 徳留 光一

中学時代、社会や国語といった文系科目は得意だけど、数学は…と言っていた息子が、「お父さん、僕、都城高専を受けるよ。」と宣言した時には、「はあ？理数系で大丈夫なの？」と言った私がいきました。もともと理数系が苦手だった記憶しかない私は驚きながらも、「仕方ないな、本人の希望が第一だし…でも、入学してから苦労するのは本人、それくらいは覚悟の上だよな。」と思っていたのを思い出します。

近隣の都市部に高専があり、そこに進学できるということは、息子にとっても進路の選択肢の一つとして大きなことでしたし、私たち家族にとっても高等教育機関に自宅から通えるという選択肢は大変なメリットでありました。ただ、まだその時には、高専は五年で卒業だよくらい知識しかありませんでした。

そして入学してしばらくして、小学校から続いていたサッカー部に入学すること。曾於支部といっても末吉町という都市部の南隣の町から、一年次の前半は自転車ですり片道一時間以上かかっていたため、部活終了後の夜間の下校に、毎日家に帰り着くまで気がもむ日が続きました。一年次の後半からはバイク通学の許可が出たので、それまでより登下校時にかかる時間が短くなり心配は減りましたが、今度は事故の心配…きりがありませんでした。

サッカーに関しては、部活の上級生の先輩方に恵まれ、全国大会へ二年連続で出場を果たすことができました。息子が五年生の代には九州大会で涙を飲んだことを考えると、上級生の皆さんに感謝です。三年生の時は、二回戦敗退だったと記憶していますが、四年生の時は、全国三位となり、応援していた他の保護者の皆さんと狂喜乱舞したことが良い思い出になっています。また、熊本市、八代市、佐世保市、福岡市といった九州各地で夏季と冬季に開催される九州大会を始め、夏季に開催される全国大会にも二年連続で静岡県沼津市、東京都内と家族を引き連れ自家用車で応援に行けたことも良い思い出です。

さて、本業の学業に関しては、私自身が全くの門外漢であるためか、さっぱり理解できませんでしたが、建築物の設計図を描いたり、楽しそうに縮小版の模型を作製していたりする姿を見て、「ああ、何とかやってるんやね。」と安堵したものです。試験の結果に一喜一憂しながら、この科目はどうか、何とかかんとか言いながらも、無事に卒業式を迎えた時には、良かったなあとしみじみしてしまいましたが。

そんな息子も、十五歳で高専に入学してから六年目となりました。本科在学中には、ベトナムに行ったり、北海道釧路でのデザコンにサポートとして参加したり、最近では、専攻科の一年生として、福岡、大阪、東京の企業のインターンシップに出向いたり、いろいろな経験を積んでいます。バイトにも精を出しているようですが、本業にも少し集中してくれないかなと思っているところです。

ここからは、息子を離れて、私自身の都城高専との係わりについて。

息子の入学式に夫婦で参加した際、知らないうちに後援会役員の候補になっていたという話を、大分後になって当時の後援会の会長さんから聞きました。後援会の役員探しは当時も今も苦労の元のように、たまたま、当時の後援会の役員の方と私が同じ職場で、しかも支部でも何の役職も付いていないということで、白羽の矢が立ったとのことでした。もともと、当時の会長さんから正式に役員就任の依頼があったのは職場の何かの飲み会の席で、あっさり了承した所でしたが。

その時会長さんが仰っていた、「自分の子どもの教育に関われるのは、もしかしたら最後の機会かもしれないですから、どうか積極的に考えてみてください。」という言葉が決め手にもなりました。

それから四年にわたって、後援会の副会長、会長を歴任させていただきました。特に会長となってからの二年間は、自分で良いのか、何かを判断しなければならぬ時には本当にこれで良いのか、他に良い選択肢はないのかと悩みながらの二年間でした。その度に相談に乗ってもらったり、足りないところをサポートしていただいた役員の方々、学校の先生方、事務局職員の方に感謝です。

後援会の主な役割は、学生のサポート、後援会員相互の親睦といったことがあげられていますが、一番気を遣ったのは、学校との距離感をどう保つかという点でした。従来、学校と後援会は、お互いの足りないところを補い合って、学生のサポートをしてきたという歴史がありました。それが、近年の高専機構の改革や、学校予算の削減などを原因として、さまざまな支援の要望が学校から出されるようになり、また物価上昇に伴う後援会の予算の運営上の課題などが相まって、後援会予算をどうすれば最適化できるのか、効果的に配分できるのか、学校の要望にどうすればこたえられるのかなどについてかなり苦労したところでした。学校側の要望ももちろん理解できますが、一方では後援会予算にも限りがあります。また、しっかりした理由がない限り、支出の説明責任を問われかねませんので、学校側にもかなり無理をお願いし、断念してもらった案件も多々ありました。そうは思いながらも、最終的には学生のためになるのであればという思いで学校の要望にお応えしてきたと思っています。

また、各支部の代表の皆さんと、理事会や代議員会において、予算についてであったり、後援会の在り方についてであったり、ときには反対意見も交えているような意見を戦わせたことも、良い思い出になっています。

後援会の行事で一番の思い出と言えば、毎年数十名の保護者の方にお手伝いいただき、学生さんや先生方、来場者の方々に無料配布する、高専祭におけるカレーうどん作りです。早朝から準備して、にぎやかに調理し、配布し、完食し、あとかたづけが終了するまでの間、参加していただいた保護者の皆さんの親睦を深める良い機会となっていました。

ある年には、準備したうどんが足りなくなってカレーが大量に余ったり、逆に別の年にはうどんはあるのにカレーが足りなくなったり、毎年やってみないと結果がわからないという、ある意味スリリングな行事でもありました。保護者の皆さんへの毎年のご協力あつての行事ですので、今後もどうか続いてほしいものだと思います。(大体高専祭当日が寒い日であれば、カレーうどんの売れ行きは良かったように思います。)

また、保護者が参加できる行事としては、後援会行事の合同支部総会にあわせて開催される学校主催の学科別説明会があります。学科ごとに分かれて説明があるわけですが、先生から、その前年の卒業生の就職の状況や、当該年度の在学生の就職内定状況等を具体的に説明いただき、業界大手にも結構卒業生が就職している状況が分かったり、近年の就職のトレンドを教えていただいたりと、大変有意義な説明会でした。自分の息子は一体どこに就職を希望し、そのお母さんか、在学中にやっておかなければならぬことは何なのか、親としてどう接すれば良いのかなど、改めて息子と話をしたりしてお互い考えることができる貴重な機会となりました。

皆さんも感じておられることと思いますが、高専の場合、他の高校などと比べ保護者が学校と関わる機会は大変少なく、子どもと時間が合わない場合などは話す機会も少なかつたりします。そんな中で、いつも学校で子どもは何しているんだろうとか、どういう過ごし方をしているんだろうとか、気にしていたように思いますが、後援会活動に関わることができて、多少は学校の雰囲気に触れ、先生方ともお話をできたことや、他の役員の方々の情報交換ができたことなどは、私の場合、大変ためになった活動でありました。

何だか後援会の宣伝みたいになりましたが、都城高専と私との係わりの話はこれくらいにして、最後に、いつの間にか自立していく息子を見ながら、少々の寂しさとちょっぴりの不安とたくさんの安堵感、さまざまな感情が去来していますが、息子が都城高専に進学して良かったと改めて思う今日この頃です。

これまでお世話になった全ての皆様、そしてこういう機会を与えていただきましたことに感謝を申し上げ、終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

旧学生会長挨拶

建築学科 5年 山内 七海

令和最初の学生会役員である私達は任期を終え、新役員へと引き継がれました。ちょうど1年前、この場で新学生会長としての挨拶を書いたことをとても懐かしく思います。

学生会長になったばかりの時の私は自信に満ち溢れており、「こうしたい!」という理想ばかりが膨らんでいました。しかし実際に学生会としての活動が始まると、次々に押し寄せる仕事に追われ、毎日が忙しく過ぎていき、理想を実現するのは容易ではありませんでした。また学生同士の交流を深める新たな企画の考案などを行いました、実現することができず、新しい事を始めるのがどれだけ大変なのかを痛感しました。そんな中で、総務をはじめとする学生会役員のみんが色々な場面で協力してくれたり、各局がそれぞれの役割を最後まで責任を持ってしっかりと成し遂げてくれたおかげで無事に学生会の活動を

終えることができました。たくさんの人に助けられてきた1年間でしたが、このメンバーで活動することができて本当に良かったです。

次期学生会にはこれまでの失敗から学んだことや経験を活かして様々な活動を成功させてほしいと思います。そして都城高専をさらに盛り上げていってくれると期待しています。

最後に、1年間という短い間ではありましたがご指導・ご協力していただきました指導部・教職員の皆様、保護者の皆様、共に活動した学生会役員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後の学生会へのご協力もよろしくお願い致します。



役職名		学年 学科	氏名		任期：2019年1月1日～2019年12月31日									
総務	会長	5 A	山内 七海	環境局	局長	5 C	溝添明寿華	交通安全局	局長	5 A	立元 廉			
	副会長	5 A	井手ヶ原彩杏		副局長	5 A	安持 大輝		副局長	5 C	山中 享史			
	議長団	5 A	門川 睦	広報局	局長	5 M	石坂 遥	渉外局	局長	5 C	中村 優貴			
			5 C		山下 詩織	副局長	5 A		松永 洋夢	副局長	4 C	藤井 翔希		
		4 C	喜多 竜作	体育局	局長	5 C	伊地知龍之介	風紀局	局長	5 C	新島 二葉			
	3 M	岩佐 塔哉	副局長		4 A	鈴木 滉大	副局長		5 C	安田 優花				
	会計	5 A	脇山 爽太	文化局	局長	4 A	野口 器	監査委員会	会長	5 A	仁田協一葉			
		3 M	岡本 拓翔		副局長	4 A	指宿 雅		副会長	5 M	齋藤佑太郎			

新学生会長挨拶

物質工学科 4年 喜多 竜作

こんにちは。2020年から学生会長になりました。4年物質工学科の喜多竜作です。毎年11月に学生総会で選挙が行われ、会長、副会長、議長団、会計が選出されます。学生の皆さんから会長として承認されたからには、この1年間、学生皆さんが有意義な生活を送れるよう、尽力させていただきます。よろしくお願いいたします。



年が明け1月から任期が始まりました。会長になり、学生生活が今までと大きく変わっていくのを実感しています。たくさんの人からの激励の言葉をいただくことがあり、感謝の気持ちと共にこれから1年の任期に対する責任を感じております。私事ではありますが、昨年は議長団と文化祭実行委員として、様々な活動に取り組んでまいりました。そこで培った経験をもとにこの1年間、学生の皆さんが求める学校の問題を解決していきたいと思っております。学生総会の演説で申し上げた

通り、年々増えていく繰り越し金をなんとかして使用できるような努力し、学生を楽しませるイベント等も企画していければと思います。私が選ばれた選挙では新たに私を除く総務7名が選ばれました。そして総務が選んだ役員35名、総勢43名で1年間強い責任感を持ち学生会活動に取り組んでまいります。より良い都城高専にするため、学生や教職員、保護者の皆様からのご指導、ご協力を頂けると幸いです。まだまだ未熟な私たちですが、1年間全力で活動していきますので、何卒よろしくお願い致します。

2020年度学生会局員名簿			任期：2020年1月1日～2020年12月31日			
総務			文化局			
会長	4 C	喜多 竜作	局長	4 A	指宿 雅	
副会長	4 M	鶴川 瑞希	副局長	3 E	深迫 空	
議長団	3 A	川添 也葵	局員	3 A	税所 篤史	
	4 C	谷口菜々香	局員	2 A	下園 凜	
3 E	川野 祐輝	交通安全局				
	2 M	森 后太郎	局長	4 C	松崎 文人	
会計	4 C	浅井紗弥香	副局長	4 C	下野園航平	
	3 M	岡本 拓翔	局員	3 M	小田 優翔	
環境局	局長	4 C	川瀬 優美	局員	2 C	井 音羽
		3 A	瀬戸口士朗	渉外局		
局員	4 C	森高 恵	局長	4 C	藤井 翔希	
	3 C	鈴木 翔太	副局長	4 A	渡邊 桃子	
広報局	局長	4 C	原 和歌菜	局員	3 C	長友 彩華
		4 C	森 晏奈	局員	2 M	歳川 蓮
局員	4 C	下園 旭	体育局			
	4 A	中園 諒哉	局長	4 A	鈴木 滉大	
局員	3 A	結城 佑麻	副局長	4 A	大村 悠登	
	2 A	下村 すす	副局長	4 E	廣田倅汰郎	
風紀局	局長	4 C	竹島 萌唯	局員	3 A	田原 匠
		4 C	中元 優梨	局員	3 A	田中 政伍
局員	3 C	下村 紗世	監査委員会			
	3 A	菊池健士朗	会長	4 C	清水 龍生	
局員	4 C	中元 優梨	副会長	3 A	平川 真優	
	3 C	下村 紗世	会員	3 M	鬼東虎之介	
局員	3 A	菊池健士朗	会員	2 E	児島 理菜	

学内トピックス

オープンキャンパス

8月10日（土）にオープンキャンパスを実施し、763名の方々に参加していただきました。

全体説明、実験体験、教員による進路相談、在学生とのフリートーク、施設見学、寮食体験等、参加者の方々には限られた時間で多くのコーナーに参加いただきました。

参加いただいた中学生並びに保護者の皆様、先生方に深く感謝申し上げます。



アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2019九州沖縄地区大会

10月13日（日）に別府市総合体育館べっぶアリーナにおいてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト九州沖縄地区大会が開催されました。

今回の競技は2台のロボットが物干し竿に洗濯物（Tシャツ・バスタオル・シーツ）を干すというものでした。

本校からは都城Aチームと都城Bチームが参加しましたが、都城Aチームが予選リーグ1位となり決勝トーナメントに進出し、昨年に引き続き決勝までたどり着くことができました。決勝では熊本高専八代キャンパスチームに敗退し準優勝に終わりましたが、多彩なロボットのアイデアが高く評価されて、東京両国国技館で開催される全国大会に出場することとなりました。

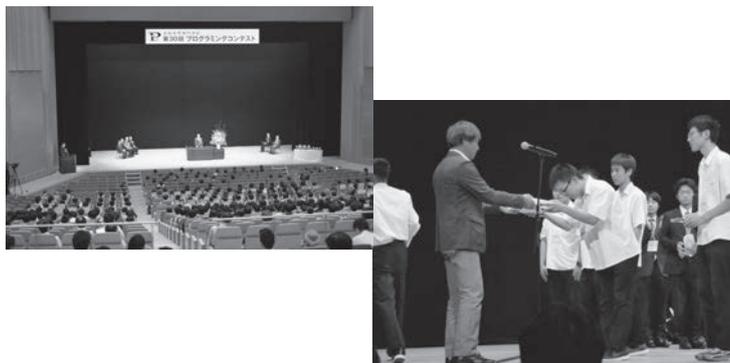
第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

第30回全国高専プロコンが10月13～14日、都城市の都城市総合文化ホールにて開催されました。都城高専が主管校を担当した本コンテストは、学生・教職員の献身的なサポートと活躍によりスムーズに運営する事が出来ました。

本校は課題部門で1チーム、自由部門で1チーム、競技部門で1チームの3部門3チームが予選を通過し全国大会へ出場しました。課題部門では「ICTを活用した地域活性化」をテーマに、電気情報工学科の臼井研究室のメンバーが「ひなタイムー宮崎のいいとこ、おひさまが教えてくれるっちゃん！」という、ひなたぼっこをしながら観光支援を受けられるシステムを開発しました。自由部門では、自由な発想の下、情報処理部の部員が「ハザップー避難訓練に革新を！」という、災害の種類や発生場所によって適切な避難経路や避難先を自分で判断する力を身に付けさせることができるシステムを開発しました。競技部門では、マス目に区切られたフィールド上で、いかに多くの陣地を占有できるかを2チームで競う陣取りゲームに情報処理部の3名が出場しました。

自由部門では、開発した避難訓練システムの重要性や訓練場所を問わない性質が評価され、トヨタシステムズ企業賞を受賞しました。

学生達は、今後も上位入賞を目指して新しいシステムの開発を目指しております。今後とも皆様からのご声援・ご協力よろしく申し上げます。



体育競技会



10月31日（木）に体育競技会が開催されました。当日は体育競技会実行委員による運営により各種競技盛り上がりを見せました。

各学科が放課後等を利用し、多くの時間をかけて練習に取り組んできた応援演舞が披露された時には、大勢の保護者、来賓及び教職員から惜しめない拍手が送られ、大いに盛り上がりました。

競技優勝は機械工学科、応援演舞賞は物質工学科、看板賞は建築学科でした。

文化祭

11月2日（土）に文化祭が開催されました。今年はテーマに「Colors」を掲げ、1人1人が自分の色を發揮し、みんなが主役である文化祭にしようという意味が込められました。1年生のステージ発表、2年生の屋台、お化け屋敷、3年生の学科開放、4年生の研究発表やその他にも各種イベント（ダンス、お絵かき伝言ゲーム、ロシアンルーレット、カラオケ大会、イントロクイズ、ものまね等）や文化部による展示や発表、後援会によるカレーうどんの無料配付がありました。

1年生のステージ発表では電気情報工学科が最優秀賞を受賞し、4年生の研究発表では機械工学科が最優秀賞とプレゼン賞をダブル受賞し閉会式で表彰されました。



おもしろ科学フェスティバル

11月17日（日）、本校において、第7回都城高专おもしろ科学フェスティバルを開催しました。このフェスティバルは、小中学生を中心とした未来ある子どもたちに、科学のおもしろさを伝え、将来の日本の産業界を支えるための人材育成に寄与する目的で開催したものです。1,600名以上の多くの方々にご参加いただき、各ブースにおいて、さまざまな実験・工作などの体験型ものづくり活動に親しんでいただきました。ご来場いただきましたみなさま、誠にありがとうございました。



クレーンゲームで遊ぼう！



大玉シャボン玉



輝け！
ウォーターライトキャンドル



世界にひとつだけ！
自分だけの模様をつくらう！

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2019全国大会

11月24日（日）に東京両国国技館においてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会が開催されました。

都城高专は1回戦で福井高专と対戦し勝利し、2回戦では、九州沖縄地区大会の決勝戦の再来となった熊本高专八代キャンパスを相手に果敢に勝負を挑みましたが惜しくも敗退しました。しかし、決勝戦前に行われるエキシビションに都城高专と小山高专の2チームが選出され、国技館を大いに沸かすことができました。

表彰式では、ロボットに独創的なアイデアを満載し、それを実現させたとして審査員満場一致で都城高专が文部科学大臣賞（アイデア賞）に選ばれ、来場されていた萩生田文部科学大臣から賞状とトロフィーが授与されました。また、大会協賛企業の安川電機様から特別賞をいただくことができました。

学生表彰

第56回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

◎陸上

[男子]

走高跳	亀川 巧 (3 A)	第3位	1m85
200m	岩佐 塔哉 (3 M)	第3位	22秒47
400m	岩佐 塔哉 (3 M)	第1位	49秒02
1500m	平川 壘 (2 A)	第3位	4分9秒29
3000m障害	廣田倅汰郎 (4 E)	第1位	9分46秒19(大会新)
4×400mR		第4位	3分27秒48

蛭原 海飛 (3 A)、津曲 克樹 (4 E)、岩佐 塔哉 (3 M)、廣田倅汰郎 (4 E)

[女子]

陸上競技	陸上部女子	第3位	70点
砲丸投げ	平川 真優 (3 A)	第2位	8m04
円盤投げ	平川 真優 (3 A)	第1位	26m63
走高跳	杉尾京都絵 (1 A)	第2位	1m35
走高跳	井 音羽 (2 C)	第1位	1m52 (大会新)
走幅跳	長友 彩華 (3 C)	第2位	4m94
100mハードル	長友 彩華 (3 C)	第3位	16秒71
4×100mR		第3位	53秒30

平川 真優 (3 A)、長友 彩華 (3 C)、向原 夢月 (3 A)、井 音羽 (2 C)

◎剣道

女子団体 剣道部 優勝

◎柔道

男子団体	柔道部	優勝
男子個人 60kg級	稲丸 陽大 (3 A)	優勝
男子個人 73kg級	長倉 泰樹 (4 A)	優勝
男子個人 73kg級	栗原 大虎 (3 E)	第3位
男子個人 90kg級	村永 祐晟 (2 M)	第2位
女子個人	稲丸 知世 (5 A)	第2位

◎水泳

男子200m平泳ぎ	堀切 風音 (1 M)	第2位	2分40秒03
女子100m平泳ぎ	石坂 遥 (5 M)	優勝	1分26秒55
女子100m背泳ぎ	尾崎 彩花 (1 C)	第2位	1分14秒27
女子50m自由形	尾崎 彩花 (1 C)	第3位	30秒52
女子100m自由形	植田 丞美 (2 E)	第2位	1分07秒32
女子200m個人メドレー	植田 丞美 (2 E)	第3位	2分52秒59
女子200mリレー		第3位	2分18秒97
尾崎 彩花 (1 C)、小山海南子 (1 A)、石坂 遥 (5 M)、植田 丞美 (2 E)		第2位	2分26秒31 (大会新)
尾崎 彩花 (1 C)、石坂 遥 (5 M)、植田 丞美 (2 E)、本部 柚依 (1 A)			

◎テニス

女子シングルス	中原 彩希 (2 C)	第3位
女子ダブルス	坂元 水里 (4 C)、中原 彩希 (2 C)	第3位

◎バレーボール

男子バレーボール部	準優勝
女子バレーボール部	準優勝

第54回全国国立高等専門学校体育大会

◎陸上

[男子]

3000m障害	廣田倅汰郎 (4 E)	第3位	9分53秒53
---------	-------------	-----	---------

[女子]

走高跳	井 音羽 (2 C)	第3位	1m50
4×100mR		第4位	52秒87
平川 真優 (3 A)、向原 夢月 (3 A)、長友 彩華 (3 C)、井 音羽 (2 C)			

◎剣道

女子団体 剣道部 優勝



学生表彰



第6回九州沖縄地区国立高等専門学校弓道大会

男子団体の部 準優勝
女子個人の部 山田 涼夏 (5 C) 第3位

令和元年度宮崎県高等学校総合体育大会

陸上 男子走高跳 亀川 巧 (3 A) 第2位 1m85
陸上 男子200m 岩佐 塔哉 (3 M) 第2位 22秒11
陸上 男子400m 岩佐 塔哉 (3 M) 第1位 48秒21
陸上 女子走高跳 井 音羽 (2 C) 第1位 1m57
少林寺拳法 男子単独演舞 吉永 大翔 (3 E) 第3位

令和元年度九州高等学校総合体育大会南九州地区予選会

陸上 男子400m 岩佐 塔哉 (3 M) 第4位 48秒43

令和元年度宮崎県高等学校新人総合体育大会

陸上 男子3000m障害 平川 壘 (2 A) 第3位 9分59秒91
陸上 女子走高跳 井 音羽 (2 C) 第1位 1m57
水泳 女子50m背泳ぎ 尾崎 彩花 (1 C) 第1位 34秒87

第45回宮崎県高校ジュニア陸上競技選手権大会

陸上 男子走高跳 亀川 巧 (3 A) 第2位 1m89
陸上 女子走高跳 井 音羽 (2 C) 第3位 1m53

第28回九州高専新人ラグビーフットボール大会

7人制の部 ラグビー部 優勝

第57回県南地区小中高校新人剣道大会

高校男子団体の部 剣道部 第3位

第24回九州沖縄地区高等専門学校バレーボール新人大会

女子バレーボール部 準優勝

令和元年度都城市スポーツ賞

剣道 団体の部	剣道部女子	優秀賞
陸上 個人の部	平川 真優 (3 A)	優秀賞
陸上 個人の部	井 音羽 (2 C)	優秀賞
柔道 個人の部	長倉 泰樹 (4 A)	優秀賞
柔道 個人の部	稲丸 陽大 (3 A)	優秀賞

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019九州沖縄地区大会

都城高専Aロボット名：ハットトリック！ポッポちゃん！ 準優勝

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019全国大会

都城高専Aロボット名：ハットトリック！ポッポちゃん！ アイデア賞、特別賞（株式会社安川電機）

宮崎県吹奏楽コンクール

吹奏楽部 金賞

実用英語技能検定

福留 詳麻 (5 E) 準一級合格



高千穂寮トピックス

入寮式

4月3日(水)14:10より専攻科多目的ホールにて、新1年生59名の入寮式を行いました。新入寮生と保護者参列のもと、寮務主事の挨拶、寮生会会長の歓迎の挨拶、寮生会役員の自己紹介、関係教職員の紹介と入寮に際しての説明が行われました。新入寮生にとっては初めて、親元を離れての寮生活が始まりました。



寮生会役員研修

11月13日(水)新旧寮生会役員、寮指導部の参加で寮生会役員研修が行われました。

研修では寮役員研修実施要項に基づいて活発な議論が行われました。



寮祭を開催しました

第53回都城高専高千穂寮の寮祭が5月18日(土)第一体育館で昼の部9:00~14:30、夜の部18:00~21:20の日程で開催されました。開会式では寮務主事・寮生会会長・寮祭実行委員長の挨拶がありました。

また、屋台ではフライドポテト・タピオカ等を出品し、夜の部は楽しみ大抽選会やコンテスト大会等が行われ、最後に手持ち花火をして楽しく過ごしました。



寮生会役員委嘱式

12月17日(火)寮生会役員の委嘱式が校長室で行われました。校長講話の後、寮生会会長の4A鈴木渥大さんが抱負を述べ、11名の寮生会役員が新たに役職に就きました。



夜間ハイク

夜間ハイクが11月8日(金)高千穂寮~関の尾公園(母智丘広場)の往復所要時間4時間で行われました。この夜間ハイクは教育計画に基づく課外指導として、長距離歩行を通して健全な体力及び精神力を養い、寮生相互の親睦を深めることを目的としており、当日は女子寮生の手作りおむすび・豚汁(魚国KK作成)・さつま芋のフライが中継地の母智丘広場で振る舞われました。休憩後、再び高千穂寮に向かって歩行を開始し、全員が帰寮したのは11時30分頃でした。大きなトラブルもなく、寮生にとって良い思い出となりました。

留学生交流カフェ

12月12日(木)モンゴルの留学生9名と引率教員2名が高千穂寮を訪問し、寮生と交流しました。アイスブレイクではA4サイズ用紙を50枚使い、どれだけ高いタワーが出来るかグループごとに競い合い、盛り上がりました。



寮生成人式



1月9日(木)18時30分より5年寮生を対象として寮指導部参列のもと、成人祝いが、学生寮食堂で開催されました。寮務主事の祝辞の後、お祝いのステーキが寮生保護者会から提供されました。また、図書カードも贈呈されました。5年生は楽しいひと時を過ごし、成人としての自覚を新たにしました。

英語&SDGsスキルアップワークショップ (高千穂寮講演会)

講師に長岡工業高等専門学校一般教育特命助教ナミタ マハルジャン先生を迎え、1月16日(木)に寮生約40名を対象としたEnglish&SDGs Workshop、1月17日(金)に低学年寮生(200名)を対象とした「My Journey in Japan」という題目の講演会を開催しました。講演会では、一般的な講演形式だけでなく、学生全員参加型のKahoot!を使ったSDGsクイズゲームや自身の目標を達成するためのワークなどもあり、寮生が楽しそうに取り組んでいました。また、2日間を英語のみで行いましたが、寮生は英語を使ったコミュニケーションに前向きに取り組んでおり、都城高専生の将来が非常に楽しみな講演会となりました。





スパイシーで刺激的なタイの旅

機械電気工学専攻 2年 細屋 直樹

昨年9月にタイ王国ホアヒンで開催された5th International Workshop on Fundamental Research for Science and Technology (GEMS 2019)に参加した。私にとって、海外に行くことや学外での研究会に参加することは、初めてのことで楽しみより不安な気持ちが先に走った。

この研究会では、本校からの学生に加え、他大学高専の学生、およびタイの学生も参加しており、合わせて40人ほどの参加者だった。他専攻の学生の発表は自分の全く知らない分野ばかりで非常に強い刺激を受けた。また、プレゼンテーションのやり方がうまい学生も多くとても参考になった。

私はProposal of Skeletal Detection Method for Kendo Player Using Open Poseというタイトルで発表した。多くの発表者とは専門分野が異なったため、発表内容がしっかりと伝わっているか不安だったが、「面白い」という感想や、

「ここをこうしたらいいのでは？」等のアドバイスを頂いた。発表そのものは不慣れなところもあり、他の発表者のようによどみなく行うことは出来なかったが、自身の研究について感想やアドバイスを頂けたことは研究に対する自信とモチベーションにつながった。

この研究会に参加したことで、自身の研究の発展のきっかけを得ることができただけでなく、語学の大切さを実感した。是非、在学生の皆さんも積極的に参加してもらいたい。



第29回太陽光発電国際会議 (PVSEC-29)に参加して

機械電気工学専攻 1年 内村 友宏

私は、中国の西安で開催された太陽光発電国際会議「29th International Photovoltaic Science and Engineering Conference (PVSEC-29)」に11月3日～7日の5日間、参加してきました。この国際会議は、毎年秋にアジアで開催される太陽電池に関する世界で最大規模の国際会議です。今回は、私にとって初めての国際会議参加になりました。

私は、化合物薄膜太陽電池に関するポスター発表を行いました。ポスター発表では、事前に説明の準備を行っていたため発表はある程度できたと思います。しかし、いざ英語で質問をされると聞き取ることはできましたが、言いたいことをうまく伝えることが出来ませんでした。また、他の発表者の発表を聞いて質問をしたいと思っても、英語でうまく話せないで質問することができないという悔しい思いもしました。この体験を通して、自分の英語力の低さを痛感するとともに、英語力が無ければ世界の最新情報を得る機会を逃すだけでなく、今後の研究方針を決定する際にも影響するということを実感しました。

また、会議が開かれた西安は、唐の都の「長安」があった場所で、世界遺産「兵馬俑」があることで有名です。私も「兵馬俑」に訪れましたが8000体もの兵士が全員違う顔で同じ方向を向いている姿は圧巻でした。

今回の国際学会を通して、最先端の研究に触れ研究のモチベーションになったとともに、更に英語の勉強をしなければならないと感じました。来年、PVSEC-30が韓国の済州島で行われますが、さらにいい研究成果をこの学会に持っていきように研究を頑張りたいと思います。





14th ISEMを振り返って

私たちは、11月1日から3日間、筑波で開催された14th-ISEM2019 (The 14th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics) という国際シンポジウムのポスターセッションにて、研究発表を行いました (<https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/news/20200106000896.html>)。ポスターは全て英語で作成し、当日の発表および質疑応答も全て英語で行うため、私たちは様々な準備を整え発表に臨みました。

ポスター作成では、自分たちの研究を説明するために分かりやすい英語表現にする必要があります。英単語の意味をよく把握して、そして表現の適切さの確認も行わなければなりません。また発表原稿については、英単語の発音は間違っていないか、聞き取りにくい部分はないかの確認が必要で、ポスター作成とは違った英語の難しさを感じました。これらの作業を行っている自分たちの英語力のなさを痛感しましたが、ポスターの完成と同時に大きな達成感が得られ、英語に関して自信を持つことができました。以上の準備を経て、

機械電気工学専攻1年 飯田晃平 結城秀麻

緊張しながら11月3日の本番の発表に臨みました。まずまず練習の成果を発揮することができたと思います。しかし悔やまれる経験がありました。他の参加者に英語で質問しようとした際、とっさに英文が思いつかず、結局質問を断念し苦い思いをしました。そのため、11月3日の本番の発表でも改めて英語力のなさを実感しました。

今回、参加したポスターセッションでは、発表準備から当日までの間で、とにかく英語力のなさを強く認識し、日頃から英語を勉強することの重要性を大きく感じることができました。一方で多くの異なる研究内容を聴講でき、今回の国際シンポジウムで専門的な知見を広げることができました。

最後に、誰かに対して英語で発表することは、簡単ではないことかもしれませんが、必ず自身の成長に繋げることができる貴重な機会だと思います。まだ国際学会に参加したことのない方や、英語力向上を図りたいと考えている方は、是非とも積極的に国際学会の発表（海外への渡航）などに挑戦してほしいと思います。



モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専との国際交流

国際交流センター副センター長

建築学科准教授 杉本弘文

モンゴル科学技術大学・建築学科と本校建築学科は2013年より学術研究・交流に関する協定を締結しており、それ以後、毎年、本校学生及び教員がモンゴル科学技術大学を訪問し、国際交流を行っています。昨年度はこの学生交流プログラムに参加したモンゴル人学生が交流でのエピソードをモンゴル国内の日本語プレゼンテーションコンテストで発表し全国入賞したとの嬉しいニュースも届いています。また、2014年にはモンゴルにおいても3つのKOSENが誕生し、2019年には初の卒業生を送り出しています。そして本校は高専機構本部が推進している「高専海外展開プロジェクト」においてモンゴル3高専への教育・研究等に関する種々の支援を行う幹事校として、教員・学生の派遣のみならず本校でのモンゴル人教員の研修も定期的実施しています。

今年度のモンゴル科学技術大学及びモンゴル3高専における学生交流は9月11日～19日の日程で行われ、学生4名が参加しました。交流プログラムでは、学生との交流を中心としてキャンパスツアーやウランバートルのまちづくりについて学生達で意見交換・提案し合う異文化理解のための国際ワークショップ（リノベーションまちあるきinウランバートル：参加者約30名）、さらに学生同士が研究内容の紹介等を行ったりするなど、

積極的に交流する様子がみられました。また、モンゴルの先生方も本校に研修で訪れた際に交流のある学生達との久々の再会を喜んでおられました。9月19日に実施された「CONSTRUCTION & INNOVATION 2019 -INTERNATIONAL CONFERENCE-」（主催：モンゴル科学技術大学）においては、「Study on Living Space Planning in Ulaanbaatar, Mongolia」と題してモンゴル科学技術大学・ゴンチグバト研究室と杉本研究室で共同研究での成果について口頭発表を行いました。学生達は学生交流の後、SNS等を通じて交流を継続しているようです。

今後も本校とモンゴル科学技術大学・モンゴル3高専の先生・学生との共同研究や交流が一層深まり、お互いに刺激合いながら発展していくことを願っています。



ワークショップ後の記念撮影



ワークショップの様子

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

本 科					
機械工学科	宮崎日機装	東京製鐵	三菱重工業		
	京製メック	キヤノン	豊橋技術科学大学		
	ファナック	日本特殊陶業	熊本大学		
	パナソニック(株) アプライアンス社	旭化成	鹿児島大学		
	味の素食品	九州小島	神奈川工科大学		
	安川電機	東芝プラントシステム	都城高専専攻科		
	J X T G エネルギー	花王			
	三島光産	J R 九州	求人件数 計 632件		
	クボタ	三菱電機			
電気情報工学科	M J C	九州電力	東北大学		
	共立電機製作所	三和エレクトロニクス	広島大学		
	システム開発	ソフトサービス	九州大学		
	宮崎銀行	ダイダン	九州工業大学		
	出光興産 徳山事業所	デザインネットワーク	熊本大学		
	A J S	東京ガス	鹿児島大学		
	エス・ティ・ティ エムイー (NTT-ME)	トヨタ車体研究所	HAL 東京		
	大阪ガス	パナソニックシステムソリューションズジャパン	都城高専専攻科		
	九州テン	ビーネックスソリューションズ			
	京セラ 鹿児島国分工場	F I X E R			
	コベルコソフトサービス	フードテクノエンジニアリング	求人件数 計 704件		
	関西電力	村田製作所 八日市事業所			
物質工学科	日本原子力発電	デンカ	富山大学		
	旭化成	日本アルコール産業	広島大学		
	ノックス	東洋インキ S C ホールディングス	熊本大学		
	ディスコ	第一三共プロファーマ	高知高専専攻科		
	大阪シーリング印刷	J X T G ホールディングス	都城高専専攻科		
	花王	出光興産			
	中外製薬工業	東レ			
	日東電工	大日精化工業	求人件数 計 362件		
	D I C	新潟大学			
建築学科	都北産業	防衛省	東レ建設		
	宮崎市役所	東急電鉄	亀山建設		
	ダイダン	大和ハウス工業	三菱ケミカルエンジニアリング		
	日立ビルシステム	J P ハイテック	戸田建設		
	ザイマックスアルファ	九州電力	シーアールイー		
	五洋建設	東京ガス	豊橋技術科学大学		
	西日本高速道路	ワールドインテック	大阪ハイテクノロジー専門学校		
	住友不動産	東京不動産管理	都城高専専攻科		
	トランスコスモス	日本オーチス・エレベータ	求人件数 計 390件		
	関西電力	コーアツ工業			
専 攻 科					
機械電気工学専攻	DMG 森精機	物質工学専攻	日本血液製剤機構	建築学専攻	山翠社
	富士電機		ディスコ		団一級建築設計事務所
	メタウォーター		長岡技術科学大学大学院		東レ建設
	A B B ジャパン		九州大学大学院		熊本大学大学院
	F I X E R				
	日東電工 関東事業所				
	九州工業大学大学院				
専攻科全求人件数 計 1,867件					

（令和元年12月末現在）

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹
作曲 海老原 直

Moderato
mf con spirito

(1)ぎょう うおか んきき はれい 一きわ ゆしね るをに きつう 一りたる 一しえわ 一またし 一のるく みふま

ねるた みきお ねみお とやし 一おく 一くにも ああき おたき 一ぎらに 一つしお 一のつきう たこみ

かうや きがま りくき そのり うみし にちま あきか くわた 一がめど 一るんり るとて こつひ ことろ ろいく もしゆ きわた よれけ 一きはき わはき かっよう どうのの ゆこは

めこな はろは ぐとひ くわら まぎか 一んのん ままま ななな びびび 一やや 一のぞぞぞ あ

あ こう せーん み や この じょう (2)とた (3) じょう

一 暁雲映ゆる霧島の
峰々遠く仰ぎつゝ
高き理想にあくがるる
心も清き若人の
夢はぐくまん学舎ぞ
ああ高専都城

二 遠き歴史を伝えたる
古き都に新しき
工学の道極めんと
集いしわれら八百の
心と技術の学舎ぞ
ああ高専都城

三 高き岩根に美しく
また雄々しくも咲き匂う
みやま霧島かたどりて
広く豊けき教養の
花は開かん学舎ぞ
ああ高専都城



都城工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonojo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1

TEL 0986-47-1107 FAX 0986-38-1508

URL <https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/>